HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	わが国最初の「印度哲学史」講義 (二) : 井上哲次郎の未公刊草稿
Author(s)	今西, 順吉
Citation	北海道大學文學部紀要, 39(2), 1-77
Issue Date	1991-02-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/33568
Type	bulletin (article)
File Information	39(2)_PR1-77.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学部紀要 39-2 (1990)

わが国最初の「印度哲学史」講義（二）

——井上哲次郎の未公刊草稿——

今西順吉

目次

はじめに
第一篇 本文
凡例
第八章 尼夜耶学派
第九章 衛世師学派即チ勝論派（以上前号に掲載）
第十四章 各種ノ哲学派
第十五章 印度哲学ノ総評
〔付〕夏目漱石の聴講ノート断片（以上本号に掲載）
第二篇 解説と注記

印度哲學史 第七

各種ノ哲学派
〔哲学派ノ分類〕
各哲学派ノ主義
〔印度哲學ノ総評〕

第十四章 各種ノ哲学派

第一項 叙論〔哲学派ノ分類〕

古来哲学思想ニ富メル人民世界ニ三箇アリ、西洋ニアリテハ希臘及ビ獨逸ノ人民、東洋ニアリテハ印度ノ人民、是レナリ、印度人民ノ特質タル、頗ル經験的事実ニ疎遠ナルノ弊アリト雖モ、反リテ深邃ナル哲学的思辨ニ長ゼリ、已ニ紀元前六七世紀ニ当リ、吠陀經ノ解釈トシテ優波尼沙土 Upanishad ト称スル哲学ノ種類百四十五種アリ、実ニ印度哲学ノ源泉タリ、優波尼沙土ニ紹イテ起レル哲学派ノ數、極メテ繁多ナレモ、歴史ノ徴スベキモノナキガ故ニ其果シ

テ幾多ナルヲ確定スルヿ能ハズ、今左ニ逐一諸説ヲ列擧セン、

第一、九十六派トスルノ説……華嚴經十廻向品（八十華嚴卷廿六第十五葉右）ニ云ク「願一切衆生、得二如来幢一、摧二滅一切九十六種外道邪見一」云云ト、又大智度論卷廿二（第廿九葉右）ニ云ク「世間諸法実相寶山、九十六種異道皆不レ能レ得」ト、仝卷廿七（二十右）ニモ「九十六種外一時和合、議言、我等亦皆是一切智人」トアリ、其外九十六種ノ外道ノヿ〔修行本起經卷上左六太子瑞應經卷下七左普曜經卷五二左雜譬喩經卷十六左ママ及ビ其他〕諸書ニ散見ス、是等ハ皆佛教以外一切ノ哲学派ヲ九十六種トスルモノナリ、法雲ノ飜訳名義集外道篇（卷二第廿八葉右）ニ云ク「垂裕云、準二九十六外道經一於レ中一道是正、即佛也、九十五、皆邪」ト、九十六外道經ト云ヘル書ハ蓋シ各哲学派ノ事ヲ叙述セシモノナラン、惜クハ傳ハラズ、姑ク垂裕ノ言ニ従ヘバ、外道ノ數ハ九十五ニシテ佛教ヲ併セテ九十六ナリ、然レ𪜈佛教ヲモ外道ト稱スルヿ頗ル疑ナキニアラザルナリ、

第二、九十五派トスルノ説……涅槃經衆問品（會疏卷十第十五葉左）ニ云ク「世尊常説、一切外学九十五種、皆趣二悪道一」ト、又現病品（仝上第卅葉右）ニ云ク「當下為三外道九十五種之所二輕慢一、生中無常想上」ト、其他起信論（義記下ノ末第卅一葉右）ニモ「不下為二九十五種外道一鬼神之所中惑乱上」ト云ヘリ、是等ハ皆佛教以外ノ哲学派ヲ九十五派トスルモノナリ、

第三、六派トスルノ説……西洋ノ学者ハ婆羅門ノ哲学派ヲ六種ニ分ツヲ通例トス、今六派ト其祖師トヲ挙ゲン〔ハ左ノ如シ、〕

名稱

(一) 尼夜耶派（即チ因明派）……喬答摩

(二) 衛世師派（即チ勝論派）……迦那陀
(三) 僧佉派（即チ數論派）……迦比羅
(四) 瑜伽派（即チ観行派）……波騰闍梨
(五) 弭曼薩派（即チ声論派）……闍伊弭尼
(六) 吠檀達派（即チ吠陀派）……婆達羅耶那（一名毘耶娑）

之レヲ六哲学派 Shaḍ Darśanas ト称ス、是等ハ印度哲学派中特ニ重要ナルモノナルガ故ニ西洋ノ学者ハ撰出シテ以テ六哲学派トセルナラン、然レモ一切ノ印度哲学ハ此六哲学派ニ盡キタリトスルニアラザルハ尚ホ斫婆迦 Châr̥vakas 闍伊那 Jaina 婆訶斯波多 Bârhaspatyas 等ノ哲学派アルヿヲ認識セルヲ以テ知ルベキナリ、慈恩モ亦大類ノ外道、別スルニ六計アリト云ヒテ佛教以外ノ哲学派ヲ六種ニ区分セリ、然レモ彼レハ數論、勝論、明論、声顕論、声生論、順世論ヲ撰出セリ、其中明論ハ声ノ常住ヲ主張スルモノト云ヘバ蓋シ吠檀達ナラン、順世論ハ即チ斫婆迦ヲ謂フナリ、

第四、三十派トスルノ説……是レ大日經十住心品ニ見ユル所ニシテ、其主義ノ大意ハ唐ノ沙門一行ノ義釋巻二（七乃至十三）ニ見ユ、義釈ハ一行ガ親シク善無畏 Subhakarasimha ニ質シテ著作セル所ニ係ル、今左ニ三十派ヲ擧ゲン、

第一、時論……計時外道ヲ謂フ、
第二、地等變化論…地論師、服水論師、火論師、風仙論師及ビロ力論師ヲ謂フ、
第三、瑜伽我論……瑜伽派ヲ謂フ、我ハ蓋シ衍文ナラン、
第四、建立淨論……一切法ヲ建立シテ此レニ依リテ修行スルヲ淨トナスモノ、其観念或ハ唯心論ニ類スルモノナルカ、

第五、不建立無淨論…建立ハ究竟ノ法ニアラズ、若シ建立スルナケレバ無為ナリ、是レヲ真我ト名ヅク、彼ノ所修ノ淨ヲ離ルヽガ故ニ無淨ト云フナリ、

第六、自在天論……濕婆派ヲ謂フ、

第七、流出論……現象ハ造化ニヨリテ成ルトスルモノ、然レモ之レヲ流出ト云フヲ観レバ其観念寧ロ分出論 Emanationslehre ニ類スルモノナルカ、

第八、時論……第一ノ時論ト少シ異ナリト云ヘモ、如何ナル點ニ於テ異ナルカ、詳ナラズ、

第九、尊貴論……尊貴ハ那羅延天 Nârâyaṇa（梵天〔婆羅賀磨若ク〕ハ毘濕奴〕ノ異名）ヲ謂フ、此派オモヘラク、那羅延天ハ常住不動ナレモ、輔助ノモノアリテ萬物ヲ造成ス、譬ヘバ猶ホ有司ノ人主ヲ扶翼スルガ如シ、那羅延天ハ一切ノ地水火風空ノ處ニ遍ク、森羅萬象ハ畢竟那羅延天ナリ、

第十、自然論……無因論派ヲ謂フ、

第十一、内我論……身中心ヲ離レテ別ニ精神アリテ此身ヲ使令シ、百般ノ事業ヲナストスルモノ、蓋シ勝論ノ如キモノヲ謂フナラン、

第十二、人量論……精神ノ大サハ人身ノ大サニ同ジク、身小ナレバ精神モ亦小ナリ、身大ナレバ精神モ亦大ナリトスルモノ、蓋シ闍伊那派ヲ謂フナラン、

第十三、遍嚴論……精神能ク萬物ヲ造成シ、世間ノ尊勝遍嚴ノ事ハ精神ノ然ラシムル所トスルモノナリ、

第十四、壽者論……四大及ビ草木等皆壽命アリトスルモノ、換言スレバ萬物均シク生命ヲ有シ、覚睡ト生死ヲ免レズトスルモノ、即チ闍伊那派ノ如キ、萬物有生論 Hyloizoismus 若シクハ萬物有情論 Hylopathismus ヲ謂フ、

第十五、補特迦羅論…生類ハ屢〻苦果ヲ取リテ天、人、畜生等ノ諸趣ニ往来ストスルモノナリ、慧苑ノ華厳音義巻二(七左)ニ云ク「補伽羅、正云ニ補特伽羅一、(Pudgala) 此曰ニ數取趣一、謂三造集不レ息、數々取ニ苦果一也」ト、補特伽羅ハ數取趣ト訳ス、數取趣ハ頻リニ業ヲ作リテ諸趣ニ流轉スルヲ謂フ、一切ノ有情ハ數取趣タルガ故ニ或ハ之レヲ有情トモ云フ、屢〻諸趣ニ流轉スルモ、我体ハ常住不變ナリト主張ス、即チ精神不滅ノ説ナリ、此ニ補特迦羅ト云フハ闍伊那派ニ於ケル如ク物質ノ義ニアラズシテ輪廻ヲ免レザル有情ヲ謂フナリ、

第十六、識論……意論〔識〕ヲ以テ我トナシ、意識ハ遍一切處ニシテ地水火風空ノ五大ニモ遍満ストスルモノナリ、

第十七、阿頼耶論……阿頼耶 âlaya (本ト住居ノ一ニシテ執持含藏ノ義アリ) ト称スル一箇ノ官能アリ、此身ヲ維持シテ、作用ヲナシ、萬般ノ寫象ヲ含藏ス、之レヲ攝スレバ所有ナリ、之レヲ舒スレバ世界ニ満ツ、延縮自在ニシテ常住不滅ナリトスルモノナリ、佛教ノ八識 achṭa vijnâna ノ第八ノ阿頼耶ト同ジカラズ、

第十八、知者論……身中ニ知者アリテ能ク苦楽等ノ事ヲ知ルトスルモノ、蓋シ知者トハ苦楽等ヲ直覚スル精神ヲ謂フナラン、

第十九、見者論……見者ハ是レ眞我(即チ精神)ナリトスルモノ、前ノ知者論ト大同小異、但〻彼レハ能知ニ就イテ之レヲ云ヒ、此レハ能見ニ就イテ之レヲ云フノ差アルノミ、

第二十、能執論……身中ニ識心ヲ離レテ別ニ能執者(即チ原動者)アリ、是レヲ眞我(即チ精神)トナス、能ク身口ヲ運動シテ百般ノ事業ヲナストスルモノナリ、

第廿一、所執論……前者ニ反シ、識心ヲ以テ能執(即チ原動)トシ、眞我ヲ以テ所執(即チ被動)トシ、眞我ハ

遍一切處ナリトスルモノナリ、

第廿二、内知論……内面的知識ヲ我トナスモノ、即チ身中自ラ内証者アリ、是レヲ眞我トナスト云フモノナリ、

第廿三、外知論……前者ニ反對シテ外面的知識ヲ我トナスモノ、即チ能ク客観世界ヲ知ルモノハ眞我ナリト云フモノナリ、前者ハ先天論者ノ如ク、後者ハ後天論者ノ如キ正反對ノ位置ヲ有セリ、

第廿四、社怛梵論……知者論ト大ニ同ジト云フ、社怛梵ノ義末タ詳ナラズ、

第廿五、摩奴闍論……人ハ人ヨリ生ズトスルモノ、摩奴闍 manushya ハ人ノ義ナリ、

第廿六、摩納婆論……摩納婆 mânava ハ訳シテ之レヲ勝我ト云フ、蓋シ我ハ身心中ニ於テ最モ勝妙タリ、故ニ此ノ如ク名ヅク心中ニ於テ一寸許サルベク、其微細ル芥子ノ如クシテ清淨ナルガ故ニ名ケテ淨色トモ云フ、初メ身ヲ受クルトキ最モ前ニアリテ之レヲ受ク、譬ヘバ偶像ヲ造ルトキ、先ヅ像骨ヲ造リ、後、次等ニ皮肉等ヲ造リテ之レヲ粧飾スルガ如シ、

第廿七、常定生論……我ハ是レ常住ニシテ破壊スベカラズトスルモノ、之レヲ常定生ト云フハ我ハ自然ニ生シテ常ニ存シ、更ニ又生ズル「ナキヲ謂フ、

第廿八、聲顕論……弭曼薩派ノ一派

第廿九、聲生論……是レ亦弭曼薩派ノ一派

第三十、非聲論……弭曼薩派ノ「声ハ常住ナリ」ノ説ニ反對セル尼夜耶、僧佉、衛世師等ノ諸派ヲ謂フ、

〔是レ蓋シ佛教以外ノ各哲学派ヲ分類スルモノナルベケレモ、其分類法ハ正確ナルモノニアラ〕ズ、地論、服水論、火論、風仙論、口力論ノ五種ヲ一派トシ、又尼夜耶、僧佉、衛世師等ヲ合一シテ非声論ノ一派トスルガ如キ、声顕声

生ノ二派ハ弭曼薩派中ノ支派ニ過ギザルニ、分チテ之レヲ二派トシテ非声論派ト對立セシムルガ如キ、人量論壽者論等幾多ノ論ハ共ニ是レ闍伊那派ノ唱道スル所ニシテ分チテ數派トナスベカラザルガ如キ、皆其当ヲ得タルモノニアラズ、若シ是レ單ニ佛教以外ノ各哲学派ガ唱道スル所ノ理論ノ分類ニシテ各哲学派其レ自身ノ分類ニアラズトセバ或ハ怨スベキモノアリト雖モ、亦決シテ各哲学派ガ唱道スル重要ナル理論ヲ列挙シタルモノニモアラザルナリ、

第五、十六派トスルノ説……瑜伽論巻六及ビ巻七、頭揚論巻九及ビ巻十、毗婆娑論巻十一及ビ巻十二〔大乘義林章巻一〕ニ佛教以外ノ哲学派ヲ十六種ニ分類セリ、今左ニ之レヲ挙ゲン、

第一、因中有果論……結果ハ已ニ原因ノ中ニ含有サレ居ルトスル一派、即チ先天派ヲ謂フ、此派ハ數論派ニヨリテ代表サル、瑜伽論巻六（二左）ニ云ク「謂雨衆外道、作二如レ是計一」ト、雨衆外道ハ即チ數論派ノ「ナリ、慈恩ノ大乘義林章巻一本（十六左）ニ云ク「雨衆外道執、諸法因中常有二果性一、如二禾以レ穀為レ因、欲レ求レ禾時、唯種二於穀一、禾定從レ穀生、不二從レ麥生一、故知穀因中先已有二禾性一、不レ爾應下一切從二一切法一生上」ト、尚ホ因中有果論ハ金七十論（備考會本廿五左）ニ詳ナリ、

第二、從縁顯了論……一切ノ現象ハ本来実在セルモノニテ唯助因ニヨリテ発表スレモ、助因ノ生ズル所ニアラズトスルモノ、即チ數論派及ビ聲顯派ヲ謂フ、

第三、去来実有論……過去モ未来モ現在ノ如ク、總ベテ是レ実在ニテ幻影ニアラズトスルモノ、即チ勝論派及ビ時論派ノ如キヲ謂フ、

第四、計我実有論……我（即チ精神）ヲ実在トスルモノ、義林章ニハ獣主等ノ外道之レヲ主張セリトス、蓋シ佛教及ビ婆羅門教ノ無我論ニ反シテ個人精神ノ実在ヲ唱道セル一派ナラン、

第五、諸法皆常論……我及ビ世間ヲ皆実常住トスルモノ、換言スレバ主観客観ノ両者共ニ永遠不滅ナリトスルモノ、瑜伽論ニハ伊師迦之レヲ唱道スト云フ、

第六、諸因宿作論……現在受クル所ノ一切ノ苦痛ハ皆過去ノ罪業ガ原因トナリテ起レリ、若シ厳重ニ戒苦セバ新ニ罪業ヲ生ズルノ原因ナク、舊来ノ罪業ハ戒苦ニヨリテ消滅ストスルモノ、是レハ闍伊那派ヲ謂フ、

第七、自在等因論……世間〔界〕一切不平等ノ現象ハ大自在天（即チ濕婆）若クハ大梵（即チ婆羅賀磨）若クハ丈夫ノ變化スル所、若クハ又時方空我等原因トナリテ變化スル所ト云フ一派ナリ、

第八、害為正法論……祭祀咒術ヲ先トシ、數多ノ生命ヲ害シ、祭ルモノ、害セラルヽモノ、及ビ助伴ノモノ皆天ニ生ズルヿヲ得トスル一派ナリ、

第九、邊無邊等論……世界ノ有邊無邊ヲ考察スルモノ、此派ニ四種ノ別アリ、第一、世界ヲ有邊トスルモノ、第二、世界ヲ無邊トスルモノ、第三、世界ヲ亦有邊亦無邊トスルモノ、第四、世界ヲ非有邊非無邊トスルモノ、是レナリ、

第十、不死矯乱論……常住不死ノ天ヲ奉崇シ、眞理ヲ覚リ、煩惱ナシト唱道シ、若シ之レヲ詰問スルトキハ餘事ニ托シ、矯乱以テ之レヲ避クル一派ナリ、此派ニ四種ノ別アリ、第一、善悪ヲ覚知シテ、未ダ應報ヲ開悟セザルモノ、第二、論証ノ點ニ就イテ過度ノ併執ヲナスモノ、第三、善悪ヲ覚知シ、應報ヲ開悟スト雖モ、未ダ善悪ニ於テ決定セザルモノ、第四、羸劣愚鈍ニシテ正答ヲナスヿ能ハザルモノ、是レナリ、

第十一、諸法無因論……我及ビ世間一切ノモノハ原因ナク自然ニシテ生ズトスルモノ、即チ自存論 Self-existence ヲ主張スルモノ、或ハ又之レヲ無因見論ト云フ、是レ大日経ノイハユル自然論、外道小乘涅槃論ノイハユル無因論

師ト同ジ、此派ニ又二種ノ別アリ、第一ハ無想天ヨリ没シ来リテ此世界ニ生レ、其前生ヲ記憶セザルガ故ニ無因トスルモノ、第二ハ世界ノ諸現象ハ忽然トシテ生滅シ、前後連絡ナキガ如クナル故ニ無因トスルモノ、是レナリ、

第十二、七事断滅論……我身ハ四大ノ造成スル所ニシテ病苦アレモ、死後ハ断滅シテ有ルヿナク、七事共ニ断滅ストスルモノ、其七事ト云フハ欲界 Kâmadhâtu ノ人天ヲ二トナシ、次ギニ色界 Rûpadhâtu ノ諸天ヲ合シテ一トナシ、次ギニ無色界 Arûpadhatu ノ四空ヲ四トナシ、合シテ七事ナリ、四空ハ第一ニ空無邊處 Akacanantayatana 第二ニ、誠(識)無邊處 Vijnânânantâyatana 第三ニ無所有處 Akinchannyayatana 第四ニ非想非非想處 Naivasamjnânasamjnâyatana 是レナリ、此派ヲ或ハ單ニ断見論トモ云フ、

第十三、因果皆空論……善人ニ悪果ヲ来タシ、悪人ニシテ善果ヲ来タスヿアルガ故ニ元来因果ノ連絡アルニアラズトスルモノ、或ハ單ニ空見論トモ称ス、瑜伽論ニ據レバ此派ハ六無ヲ主張ス、第一、施與愛養祠祀ナシ、是レ必ズシモ相当ノ結果ヲ来タスモノニアラズ、例ヘバ一生布施ヲ行ヒ、間断アルヿナキモ、命終ノ後反リテ下賤ノ家ニ生レテ貧窮ナルヿアルガ如シ、故ニ一切之レヲ否定ス、第二、妙行悪行及ビ果異熟ナシ、是レ善行ハ善、悪行ハ悪ト云フガ如ク、必ズシモ相違ノ結果ヲ来タスモノニアラズ、故ニ之レヲ否定ス、第三、彼世間〔界〕ナク、此世間〔界〕ナシ、一ツノ刹帝利ニシテ命終ノ後、婆羅門、吠舎、戌陁羅ノ中ニ生レ、或ハ婆羅門ニシテ命終ノ後、刹帝利、吠舎、戌陁羅ノ中ニ生レ、吠舎戌陁羅等亦此ノ如クナルガ故ニ此世間〔界〕ノ刹帝利等ト云フベキ一定ノ種姓ナシ、皆彼世間〔界〕ノ刹帝利等ノ中ヨリ来ルガ故ニ、亦彼世間〔界〕ノ刹帝利等ト云フベキ一定ノ種姓ナシ、皆〔此〕世間〔界〕ノ刹帝利等ノ中ヨリ去ルガ故ニ、是故ニ之レヲ否定ス、第四、母ナシ、父ナシ、母タルモノ命終ノ後、生レテ女トナリ、女亦命終ノ後、還リテ其母トナリ、父終ハリテ子トナリ、子還リテ父トナルガ故ニ世間畢

竟父ナシ母ナシトス、第五、化生有情ナシ、人命終ノ後、或ハ無想天ニ生レ、或ハ無色界ニ生レ、或ハ涅槃ニ入リ、彼ノ生處ヲ求ムルニ、見ルヲ得ベカラザルガ故ニ、化生衆生アル「ナシトス、第六、眞ノ阿羅漢ナシ、自ラ阿羅漢ナリト思惟スルモノモ命終ノ時ニ臨ンデ生相ヲ見ルガ故ニ世間必ズ眞ノ阿羅漢ナシトス、

第十四、妄計最勝論……婆羅門ハ刹帝利等ノ種姓ヨリ優等ナリトスルモノ、之レヲ妄計ト云フハ佛教徒ノ地位ヨリ稱スル所ナリ、最勝論ハ總ベテ婆羅門教徒タルモノヽ唱道スル所ナルガ故ニ之レヲ婆羅門教ト同一視スベク、婆羅門教中ノ一哲学派ト見做スベキモノニアラザルナリ、

第十五、妄計清浄論……若シ我レ解脱スレバ清浄ナルヲ得トスルモノ、此派中ニ又四種アリ、第一ハ、一タビ解脱スレバ心、自在ヲ得テ、諸天ノ五欲ヲ享受シ、嬉戯娯楽スルヲ現法涅槃第一ノ清浄トナスモノ、第二ハ一タビ不喜ヲ離ルレバ第一及至第四ノ静慮（即チ第一禪乃至第四禪）ニ住スルヲ得、是レヲ現法涅槃第一清浄トナスモノ、此現法涅槃中四種ノ別アルガ故ニ第一ト合シテ五現法涅槃ト云フ、〔即チ楞嚴經ノ所謂五現涅槃論、是レナリ〕第三ハ孫陁利迦、婆湖陁、伽耶、薩伐底、殑伽等ノ如キ神聖ナル河中ニ入リテ支体ヲ沐浴スレバ罪業ヲ除滅スルヲ得、是レヲ第一清浄トスルモノ、第四、狗戒牛戒油墨戒露形戒灰戒自苦戒糞穢戒等ヲ持シテ是レヲ清浄トスルモノ、是レナリ、

第十六、妄計吉祥論……日月星辰等ヲ祭祀スレバ自身ノ富楽ヲ得トスル一派ナリ、

此分類モ亦前ノ大日經ノト同ジク学派ニ就イテ為シ、ト云フヨリ寧ロ理論ニ就イテ為シ、モノニ似タリ、從縁顕了論中ニ數論及ビ声顯ノ二派ヲ含有シ、去来実有〔論〕中ニ勝論及ビ時論ノ二派ヲ含有スルガ如キ、忘計最勝論ハ一切ノ婆羅門ニ共通ナルガ如ク、此分類法ハ所謂縦横区分法 Cross division ニ過ギズ、慈恩ガ義林章巻一（十六左）ニ「外道

雖レ有ニ九十五種一、大意莫レ過ニ十六異論一」ト云フヲ以テ之レヲ観レバ、十六派ハ九十五種ノ哲学派ヲ其共通ノ理論ニヨリテ分類シタルモノト見ユ、摩陀婆 Mâdhava モ亦一切ノ印度哲学派ヲ十六種ニ分類セリ、氏ハ十四紀ノ人ニシテ梨倶吠陀ノ註解者タル婆耶那 Sâyaṇa ノ兄ナリ、(或ハ云フ、婆耶那ト同一人ナリト) 氏ノ分類ニ係ル十六派ハ上ニ列挙スル所ト同ジカラズ、今左ニ其名称ヲ挙ゲン、

第一、斫婆迦派 Chârvâka ……即チ順世外道ナリ、

第二、偈達派 Bauddha ……即チ佛教派ナリ、

第三、阿羅漢派 Ârhata ……即チ闍伊那派ナリ、

第四、藍摩奴闍派 Râmânuja ……羅〔藍〕摩奴闍ト云ヘル人ノ一派ナリ、〔ニシテ、毗濕奴崇拝派ニ属ス、〕

第五、冨樓那般若派 Pûrna-prajna ……〔阿難陀底利達 Ânandatîrtha ニ属ス〕冨樓那般若 (即チ満智) ト云ヘル人ノ一派ナリ〔ニシテ毗濕崇拝派ニ属ス〕

第六、波輸鉢多派 Pâśupata ……濕婆崇拝ノ一派ニシテ蓋シ那拘利奢 Nakulîśa ノ創唱スル所ニ係ル、所謂塗灰外道、是レナリ、

第七、晒婆派 Śaiva ……即チ濕婆崇拝〔派〕ナリ、大日經ニ所謂自在天論ト同ジ、

第八、波羅底耶毗闍那派 Pratyabhijna…即チ〔復〕認識派ナリ、〔濕婆崇拝派ニ属ス、〕

第九、羅斯濕伐羅派 Raseśvara……即チ水銀派ナリ、〔濕婆崇拝派ニ属ス、〕

第十、温露迦派 Aulûkya ……即チ論勝派ナリ、

第十一、阿差波陀派 Akshapâda ……即チ尼夜耶派ナリ、

第十二、闍伊弭尼派 Jaiminîya……即チ弭曼薩派ナリ、

第十三、波爾尼派 Pâṇinîya ……波爾尼ト云ヘル人ノ一派ニシテ亦声論派ニ属ス、

第十四、僧佉派 Samkhya ……即チ數論派ナリ、

第十五、波騰闍羅派 Pâtanjala……即チ瑜伽派ナリ、

第十六、吠檀達派 Vedânta ……即チ吠陀派ナリ、

摩陀婆ハ哲学纂論 Sarva-darśana-samgraha（コウェル、ガウフ二氏ノ英訳アリ、）ヲ著ハシ、右十六派ノ要領ヲ叙述セリ、然レモ独リ吠檀達派ハ別ニ著作スル所アルノ故ヲ以テ唯〻名称ノミヲ存セリ、

第六、十三派トスルノ説……達羅毗達国ノ達磨波羅 Dharmapâla（訳シテ護法ト云フ）ノ作ニ係ル成唯識論巻一ニ十三種ノ外道ヲ挙ゲテ之レヲ駁撃セリ、其名称ハ左ノ如シ、

第一、數論

第二、勝論

第三、大自在天論……即チ濕婆崇拜派ナリ、

第四、大梵天論……即チ吠檀達派ナリ、

第五、時論

第六、方論

第七、本際論……外道小乗涅槃論ニ所謂本生安茶〔茶〕論師ノ一ナリ、

第八、自然論

第九、虚空論……即チ口力論師ナリ、
第十、我論……即チ宿作論師ナリ、
第十一、声生論
第十二、声顯論
第十三、順世論

此レニヨリテ之レヲ観レバ達磨波羅ハ曽テ尼夜耶、瑜伽等ノ諸派ヲ顧慮セザルニ似タリ、

第七、二十派トスルノ説……菩提流支 Bodhiruchi ノ訳ニ係ル提婆(龍樹ノ弟子)ノ外乗小乗涅槃論ニハ佛教以来〔外〕ノ哲学派二十派ヲ其涅槃説ニヨリテ二十派ニ分類セリ、此分類ハ單ニ涅槃ノミニ就イテ為スモノナルガ故ニ頗ル一方ニ偏スルガ如クナレモ、印度ノ哲学派ハ大抵皆涅槃ヲ以テ収局ノ目的トスルヲ以テ此分類ハアラユル当時ノ哲学派ニ〔ヲ〕包容スルモノト見做スヲ得ベキナリ、二十派ハ左ノ如シ、

第一、小乗外道論師……命終ノ時、燈火ノ滅スルガ如キヲ涅槃トナス、是レ蓋シ佛教ノ小乗派ヲ指スナラン、
第二、方論師……一切ノ物ハ方ニ〔ヨリ〕生ジ、還タ方ニ滅〔方ニ還没〕ス、之レヲ涅槃トナス、
第三、風仙論師……一切ノ物ハ風ニ〔ヨリ〕生ジ、還タ風ニ滅〔風ニ還没〕ス、之レヲ涅槃トナス、
第四、韋陁論師……一切ノ物ハ梵天ヨリ生ジ、一切ノ大地ハ福德ヲ修ムルノ戒場、若シ梵天ヲ供養セバ彼處ニ生ズルヲ得、之レヲ涅槃トナス、
第五、伊賒那論師……伊賒那 Îśâna〔即チ伊舎那天ニシテ濕婆ノ異名ナリ、〕ハ其形ハ見ルベカラザルモ、遍一切處ニシテ能ク一切萬物ヲ生ズ、之レヲ涅槃トナス、

第六、倮形外道論師……分別シテ種々ノ異相ヲ見ルヲ涅槃トス、是レ即チ闍伊那派ノ尼犍子ナリ、

第七、毗世師論師……萬物ハ父母ノ極微ノ和合ニヨリテ成ル、和合ナキモノハ離散ス、離散ハ即チ是レ涅槃ナリトス、

第八、苦行論師……身盡クレバ福德モ亦盡ク、之レヲ涅槃トス、其説ノ差〻諸国〔因〕宿作論ニ似タルヲ観レバ或ハ闍伊那派ノ如キモノヲ謂フナラン、

第九、女人眷屬論師……摩醯首羅 Mahêśvara 八個ノ女人ヲ造ル、一ヲ阿提儆ト名ヅケ、二ヲ提儆ト名ヅケ、三ヲ蘇羅婆ト名ヅケ、四ヲ毗那多ト名ヅケ、五ヲ迦毗羅ト名ヅケ、六ヲ摩少兎〔兔〕ト名ヅケ、七ヲ伊羅ト名ヅケ、八ヲ歌頭ト名ヅク、阿提儆ハ諸天ヲ生ミ、提儆ハ阿修羅ヲ生ミ、蘇羅婆ハ諸龍ヲ生ミ、毗那多ハ諸鳥ヲ生ミ、迦毗羅ハ四足ヲ生ミ、摩少兎〔兔〕ハ人ヲ生ミ、伊羅ハ一切ノ穀子ヲ生ミ、歌頭ハ一切ノ蛇蝎蚊蚋蝿蚤蚰蜒百足等ヲ生ム、此ノ如ク認識スルヲ涅槃トナス、

第十、行苦行論師……罪福盡クレバ德亦盡ク、之レヲ涅槃トナス、其説第八ノ苦行論師ト大同小異ナリ、

第十一、淨眼論師……煩惱盡クルガ故ニ智識ニヨルヲ涅槃トナス、

第十二、摩陁羅論師……一切ノ物ハ那羅延 Nârâyaṇa ヨリ起リ、此處ニ生ジテ還タ彼處ニ没ス、之レヲ涅槃トナス、摩陁羅ノ義詳ナラズ、

第十三、尼犍子論師……初メ一男一女ヲ生ズ、彼レ相和合シテ一切ノ有命〔生〕無命〔生〕等ノモノヲ生ズ、後、還タ離散シテ彼處ニ没スルヲ涅槃トナス、

第十四、僧佉論師……二十五諦ヲ曉得シ、萬物ハ自性ヨリ生ジ、還タ自性ニ入ルヲ知リ、能ク一切ノ生死ヲ離ル

ルヲ涅槃トナス、

第十五、摩醯首羅論師…世界ノアラユル生物非生物皆摩醯首羅ヨリ生ズ、摩醯首羅ノ身ハ虚空ハ頭、地ハ身、水ハ尿、山ハ糞、一切ノ衆生ハ腹中ノ蟲、風ハ命、火ハ煖、罪福ハ業、此八種ノモノハ摩醯首羅ノ身ヲ成ス、摩醯首羅ハ一切生滅ノ因ニシテ一切ハ此レヨリ生ジ、還タ此レヨリ滅ス、之レヲ涅槃トナス、此派ハ即チ濕婆崇拜派ニシテ大日經ニ所謂自在天論ト同ジ、

第十六、無因論師……萬物ハ自然ニシテ有リ、原因アリテ生ズルニアラズ、之レヲ涅槃トナス、

第十七、時論師……一切ノ物ハ時ニ〔ヨリ〕生ジ、時ニ滅ス、之レヲ涅槃トナス、

第十八、服水論師……一切ノ物ハ水ニ〔ヨリ〕生ジ、水ニ滅ス、之レヲ涅槃トナス、

第十九、口力論師……一切ノ物ハ虚空ヨリ生ジテ還タ虚空ニ〔還〕没ス、之レヲ涅槃トナス、

第二十、本生安荼論師…萬物ハ安荼 Anda（卵子ノ義）ヨリ生ジ、還タ散ジテ彼處ニ〔還〕没ス、之レヲ涅槃トス、本生安荼 Andajâtaka ハ元来卵子ヨリ生ジタルノ義ナリ、

第八、四派トスルノ説……菩提流支ノ訳ニ係ル提婆ノ外道小乘四宗論ニハ單ニ四派ノ外道ヲ挙ゲテ之レヲ論ゼリ、其四派ハ

第一、僧佉論師……一切法ハ一ナリト説クモノ、

第二、毗世師論師……一切法ハ異ナリト説クモノ、

第三、尼犍〔乾〕子論師……一切法ハ亦一亦異ナリト説クモノ、

第四、若提子論師……一切法ハ不一不異ナリト説クモノ、

第九、六派トスルノ説……註維摩經卷三（右四）ニ外道六師ヲ挙グ、法雲ノ名義集六師篇亦六師ヲ載ス、輔行□□ニ云ク「六師元祖、是迦毗羅支流分異、遂為ニ六宗ニ」ト、然レドモ六師ノ唱道スル所ヲ観ルニ、數論ト同ジカラザル而已ナラズ、具中闍伊那派ノ尼犍子ヲモ算入スルガ故ニ其數論流ノ支流タラザル「明カナリ、六師ハ左ノ如シ、

第一、冨蘭那迦葉 Puraṇa Kâśyapa……一切ノ法ハ無所有ナル「虚空ノ如クニシテ生滅セズトシ、君臣父子忠孝ノ道ノ如キハ總ベテ之レヲ否定スルモノ或ハ之レヲ色空外道ト云フ、是色ヲ以テ欲ノ有ヲ破シ、空ヲ以テ色ノ有ヲ破シ、空ヲ至極ト謂フガ故ナリ、

第二、末伽梨拘賒梨 Maskarin Kuśalî…〔Kuśalî ハ佛教小史ニ Gośali ニ作レリ（四十四頁）〕、衆生ノ苦楽ハ行為ニヨリテ得ルニアラズ、自然ニ出ヅル而已トスルモノ、蓋シ因果皆空論ノ類ナラン、

第三、刪闍夜毗羅胝 Sanjaya Vâiraṭṭi…久シク生死ヲ經、弥〻劫數ヲ歴レバ菩盡キテ自ラ得、故ニ道ハ求ムルヲ須ヒズ、猶ホ縷丸ヲ高山ニ轉ジ、縷盡キテ自ラ止ムガゴトク、何ゾ求ムルヲ要センヤト主張スルモノナリ、〔珊闍耶外道ノ事、西域記巻九（廿右）及ビ（廿右一）ニ見ユ、〕

第四、阿耆多翅舎欽婆羅 Ajita Keśakambali…身、敝衣ヲ著ケ、自ラ髪ヲ抜キ、煙ヲ鼻ニ熏ジ、五熱身ヲ炙ブル等、苦行ヲ以テ道トナシ、謂ク、今身併セテ苦ヲ受クレバ後身常ニ楽ムナリト、蓋シ瑜伽派ノ類ナラン、

第五、迦羅鳩駄迦旃延 Kakuda Kâtyâyana…物ニ應ジテ見ヲ起シ、若シ人問ヒテ有リヤト言ハヾ答ヘヲ有リト言ヒ、若シ問ヒテ無キヤト言ハヾ、答ヘテ無シト言ヒ、語法ハ亦相アリ亦相ナシトスルモノ、阿蘭〔闥〕婆吠陁ノ優波尼沙土ニハ之レヲ Kabandhin Kâtyâyana ト称セリ、

第六、尼犍陁若提子 Nirgrantha Jnâtiputra…罪福苦楽ハ盡ク前世ニ由ル、必ズ当ニ之レヲ受クベシ、今道ヲ行ク

ト雖モ、能ク之レヲ断滅スルヲ得ズトスルモノ、即チ尼犍子派ノ若提子ヲ謂フナリ、

此六師ハ釈迦ノ時ニアリテ釈迦ニ反對シタル婆羅門ノ哲学派ナリト云フ、僧肇曰ク「六師佛未ニ出世一時、皆道王ニ天竺一也」ト、若シ此言ヲシテ眞ナラシメバ六師ノ学派ハ釈迦ニ先チテ起レルモノナリ、

第十、十八派トスルノ説……亀茲國 Kharachar ノ鳩摩羅什婆 Kumârajîva 即チ羅什三藏〔ガ〕維摩経ノ注ニ前ニ挙ゲタル六師ノ事ニ就イテ左ノ如ク云ヘリ、

此六師盡起ニ邪見一、裸形苦行、自称ニ一切智一、大同而小異耳、凡有ニ三種六師一、合十八部、第一自稱ニ一切智一、第二得ニ五通一、第三、誦ニ四韋陀一、上説六師、是第一部也、

此説ニ據レバ、外道ノ哲学派ニ凡ソ十八派アリ、然ルニ其中自ラ一切智 Sarvajnâ ト称スルモノ六師アリ、是等ハ皆裸形苦行シテ大同小異ナリト云ヘバ、大抵皆尼犍子ノ類ナラン、次ギニ自ラ五通ヲ得ト称スルモノ六師アリ、五通 Panchâjnâ ハ第一、天耳 Divyaśrôtra 即チ世界ニ於ケル一切ノ音声ヲ聞ク能力、第二、天眼 Divyachakshus 即チ世界ニ於ケル一切ノ形色ヲ見ル能力、第三、宿命 Pûrvanivâsânusmriti jnâna 即チ前世ニ於ケル他一切所行ノ事ヲ知ル能力、第四、他心 Parachittajnâna 即チ一切他人心中ノ事ヲ知ル能力、第五、神足 Riddhisâkchâtkriyâ 即チ隨意ニ如何ナル形ニモ變化シテ飛行自在ナル能力、是レナリ、次ギニ四吠陀ヲ誦スルモノ、六師アリ、四吠陀ハ第一、利屈吠陀 Rigveda 第二、娑摩吠陀 Sâmaveda 第三、夜殊吠陀 Yajurveda 第四、阿闍婆吠陀 Atharvaveda 是レナリ、總ベテ三種ノ六師アリ、故ニ合シテ十八派トナス、〔又百論疏上中（十八右）ニ興皇法師ノ言ヲ引イテ云ク「初ノ六人從ニ聞惠一生、即阿蘭迦蘭等、中六人從ニ思惠一生、即尼健子若提子等、後六人從ニ修惠一生、謂須跋陀等」ト、聞惠ト云ヒ、思惠ト云ヒ、修惠ト云ヒ、人名トシテ其配当餘リ巧ニ過グルガ故ニ未ダ容易ニ之レヲ信ズルヲ得ザルナリ、〕

第十一、十派トスルノ説……首楞嚴經巻十上ニハ十種ノ外道ヲ挙ゲテ之レヲ論破セリ、其名称左ノ如シ、

第一、無因論……是レニ又二種ノ細別アリ、第一ハ本無因論、即チアラユル衆生ハ生ニ死ニ、輪廻シテ已ム「ナケレド、溯リテ其初メヲ知ラントスレバ邈トシテ観ル所ナシ、故ニ一切ノ衆生ハ本来原因ナク自然ニシテ存ストスルモノ、第二ハ末無因論、即チ鳥ハ従来黒ク、鵠ハ従来白ク、黒ハ染メテ造レルニアラズ、白ハ洗ヒテ成セルニアラズ、總ベテ自然ニ出ヅ、是故ニ恰モ過去ノ如ク来未モ亦無因ナルベシトスルモノ、是レナリ、

第二圓常論……常住不滅ヲ主張スル一派ナリ〔ニシテ蓋シ瑜伽論ニ所謂諸法皆常論ト同一ナラン〕、是レニ四種ノ細別アリ、第一、〔二萬劫常論、是レ〕心意〔我〕ト對象〔世界〕ハ共ニ無因ナルガ故ニ二萬劫ノ中ノ衆生、生滅循環シテ曾テ散失セズトスルモノ、第二、〔四萬劫常論、是レ〕四大ハ常住ナルガ故ニ四萬劫ノ中ノ衆生生滅スレド、其身体恒久ニシテ曾テ散失セズトスルモノ、第三、〔八萬劫常論、是レ〕八識ノ性常恒ナルガ故ニ八萬劫ノ中ノ衆生、循環シテ〔散〕失セズ、本来住ナリトスルモノ、第四、〔不生滅常論、是レ〕思想ハ生々、滅々相續イテ已ム「ナシ、〔想陰ノ盡クル處ニ於テ行陰ノ微細ノ生滅ヲ了セズ、〕故ニ不生滅ヲ成スト〔行陰ハ即チ生滅ノ根元タルヲ知ラズシテ之レヲ以テ不生滅ト〕スルモノ、是レナリ、

第三、分常論……一分ノ無常ト一分ノ常住ヲ主張スル一派、是レニ四種ノ別アリ、第一ハ、我常彼無常論、是レ我ハ世界ニ遍満シテ凝明不動、一切ノ衆生ハ我ガ心中ニ生滅ス、我ガ心性ハ即チ常住ニシテ彼生滅スルモノハ無常ナリトスルモノ、第二ハ劫壞劫不壞論、是レ世界ノ中ニ於テ破壞セル處ヲ無常トシ、破壞セザル處ヲ常住トスルモノ、第三、我如微塵轉論、是レ我心ハ精細微密ニシテ能ク流轉スレド、性、移改ナク、此身ヲシテ生滅セシム、其生滅セシムルモノハ常住ニシテ生滅セシメラル、モノハ無常ナリトスルモノ、第四、行常餘無常論、是レ行陰ノ発

現シテ断エズ遷流スルヲ見テ常住トナシ、色受想等ノ今已ニ滅盡セルヲ無常トナスモノ、是レナリ、

第四、有邊論……是レ瑜伽論ニイハユル有邊無邊〔等〕論ナリ〔ト同ジカラズ〕、是レニ四種ノ細別アリ、第一、三世有邊論、是レ我ガ心意作用ハ流遷生滅シテ已ムヿナキガ故ニ無邊トス、然レモ過去ト未来トハ見エズ、故ニ有邊トスルモノ、第二、衆生有邊論、是レ八萬劫ヲ見ルトキハ衆生アルヲ認識スレモ、ハ萬劫ノ前ハ寂トシテ聞見ナシ、其聞見ナキ處ヲ、無邊トシ、其衆生アル處ヲ有〔邊〕トスルモノ、第三、心性有邊論、是レ我レ一切ノ衆生ヲ知リ、一切ノ衆生、我知ノ中ニ現ハル、是レヲ無邊トス、然レモ彼ノ一切ノ人亦知アリ、其知、我知ノ中ニ現ハレズ、是レヲ有邊トスルモノ、第四、生滅有邊論、是レ心路ニ一切ノ衆生ヲ籌度スルニ、一身ノ中ニ即チ生ジ即チ滅ス、世界モ亦此ノ如ク、生處ハ有邊ニシテ滅處ハ無邊ナリトスルモノ、是レナリ、

第五、不死矯乱論…是レニ四種ノ細別アリトス、前ニ叙述シタル瑜伽論ノ四種ノ細別ト同ジカラズ、第一、一切矯乱論、是レ世界ノ中ニ於テ常變生滅増減有無ヲ認識シ、若シ人ノ来リテ主義ヲ問フモノアルトキハ我今亦生亦滅、亦有亦無、亦増亦減ト云ヒテ一切ノ時ニ於テ其語ヲ矯乱スルモノ、第二、唯無矯乱論、是レ其念々滅スル處ヲ見テ一切皆無ナリトシ、若シ人ノ来リ問フヿアラバ、唯、無ト云フ而已ニシテ、無ヲ除クノ外、言説スル所ナキモノ、第三、唯是矯乱論、是レ念々生ズル處ヲ見テ一切皆有ナリトシ、若シ人ノ来リ問フヿアラバ唯〻是レト云フ而已ニテ是レヲ除クノ外、言説スル所ナキモノ、第四、俱見矯乱論、是レ有無ヲ俱見シ、若シ人ノ来リ問フヿアラバ、有ハ即チ無ナレモ、無ハ是レ有ナラズト云ヒ、交互防遮シテ窮詰シ難キモノ、是レナリ、

第六、十六有相論…是レ或ハ自ラ身ノ堅固ナルヲ見テ、色是レ我ナリト云ヒ、或ハ我ノ徧圓ニシテ国土ヲ含有スルヲ見テ我ニ色アリト云ヒ、或ハ彼ノ前縁我ニ隨ヒテ廻復スレバ色、我ニ屬スト云ヒ、或ハ我ガ行ノ中ニ依リテ相續

スレバ、我、色ニアリト云ヒ、死後モ亦相アリトナス、此ノ如クニシテ循環シテ受想行ノ三陰ヲ併スルニ、總ベテ十六相アリトスルモノ、或ハ又此レニ従ヒテ死後煩惱モ菩提モアリ、両性並驅リテ相觸レズト思惟スルモノアリ、

第七、八無相論……是レ其色ノ滅スルヲ見ルニ、形ニ所因ナク、其想ノ滅スルヲ見ルニ、心ニ所繫ナリ、其受ノ滅スルヲ見ルニ、復タ連綴スル「ナク、是等ハ現在スラ猶ホ且ツ不可得ナリ、死後如何ンゾ更ニ之レアラン、此〔レ〕ニ由リテ之レヲ観ルニ死後相ナシ、然ルニ四陰共ニ現在ノ因ナク未来ノ果ナキガ故ニ總ベテ八無相アリトスルモノ、或ハ又此レニ従ヒテ涅槃ノ因果モ一切皆空ニシテ徒ニ名字ノミアリテ畢竟断滅スト思惟スルモノアリ、（此最後ノ一派ハ或ハ瑜伽論ノ因果皆空論ト同一ナラン）

第八、八俱非論……是レ色受想行ノ四陰ハ一切非有非無トシ、現在已ニ此ノ如キガ故ニ死後モ亦此ノ如シトシ、即チ合シテ八種ノ俱非相アリトスルモノ、即チ死後ノ有相無相ヲ言フモノ、ナリ、

第九、断滅論……瑜伽論ニ所謂七事断滅論ト同ジ、

第十、現涅槃論…是レ或ハ欲界ヲ以テ涅槃トナス、圓明ノ相ヲ見テ愛慕ヲ生ズルガ故ニ、或ハ初禪ヲ以テス、性、憂ナキガ故ニ、或ハ二禪ヲ以テス、心、苦ナキガ故ニ、或ハ三禪ヲ以テス、極悦隨フガ故ニ、或ハ四禪ヲ以テス、苦楽両ナガラ消シテ、輪廻生滅ノ性ヲ受ケザルガ故ニ、此ノ如ク有漏ノ天ニ迷ヒ、少分ノ安楽ヲ得テ涅槃ナリト誤想スルモノナリ、即チ瑜伽論ノ妄計清淨論中ノ第一ト第二ヲ合スルモノナリ、」

第十二、六十二派トスルノ説……前ニ挙ゲタル十派中ノ細別ヲ合計スレバ総ベテ六十二派トナル、之レヲ六十二見ト云フ、其中邊見ト邪見トノ別アリ、円常、分常、有想、無想、俱非、断滅ノ六論ヲ邊見トシ、無因、有邊、不死矯乱、現涅槃ノ三論ヲ邪見トス、邊見ノ中断滅論ヲ断見トシ、其他ノ五論ヲ常見トス、故ニ悉皆細別ヲ挙グレバ常見ニ

四十、断見ニ七、邪見ニ十五、合シテ六十二トナス、今之レヲ表ニスレバ左ノ如シ、

- 六十二見
  - 邊見
    - 常見
      - 円常論……四
      - 分常論……四
      - 有想論……十六
        - 無想論……八
        - 俱非論……八
    - 断見……断滅論……七
  - 邪見
    - 無因論……二
    - 有邊論……四
    - 不死涅槃論……四
    - 現涅槃論……五

六十二見ノ事ハ尚ホ〔仁王經二(四十四右)瑜伽論五十八(二左)仝八十七(三左)成唯識論六(廿八左以下)義林章四末(十二左)四教儀集註中(二右)唯識述記六末(十二左以下)頌疏十九(七左)光記十九(十二右)寶疏十九(三右)等ニ散見セリ、各哲学派ノ分類ニ就イテハ上来叙述セルガ如ク、少クモ十二種ノ説アリ、〔楞伽経ニハ百八派トシ、梵網六十二見經ニハ九類六十二派トスト云フ、(尚ホ參考ヲ要ス)、楞伽經一切佛語心品ニ云ク、今以二百八義一、仰諮二尊中上一、〕其中或ハ発達上ヨリ分類セルモアリ、又理論上ヨリ分類セルモアリテ一様ナラズ、或ハ同一ノ理論ニシテ數種ノ学派ニ

共通ナルアリ、或ハ一学派ノ數種ノ理論ヲ区別セルアリ、或ハ同一ノ理論ニ種々ナル異名ヲ附スルアリ、或ハ相違セル理論ニ類似ノ名稱ヲ附スルアリ、然レモ是等ハ皆歴史的考察上幾多ノ價値ヲ有スルモノナルガ故ニ今妄リニ改變セズ、盡ク集録シテ学者ノ便覧ニ供スルモノナリ、已ニ各哲学派ノ分類ヲ叙述シ了ハリタル以上ハ各哲学派中重大ナルモノ、主義ヲ叙述セン、

第二項　各哲学派ノ主義

各哲学派ノ時代ノ先後ヲ定ムルヿハ到底出来得ベカラザルモ、哲学思想発達ノ自然ノ順序ヨリ推測スレバ、客観世界ノ起原ヲ探究シ、一切ノ現象ヲ一主義ニヨリ解釈セント試シタルモノヽ、先ヅ競起シタルヿ、粗〻希臘ノ哲学初期ニ於ケルガ如ク、次イデ内面的考察ヲ為スモノ、漸次ニ其數ヲ加ヘ、或ハ世界ノ主義ヲ無形ノ実在ニ求メ、或ハ幾多ノ精神論ヲ究明シ、或ハ幾多ノ智識論ヲ考出スルモノ爭生セシナラン、故ニ精密ニ時代ヲ逐ヒテ各哲学派ヲ叙述スルヿハ希望スベカラザルモ、亦多少其先後ヲ推測スルヿ少シモ出来ザルニアラズ、今此旨意ニ本イテ左ニ各哲学派ヲ列挙シ、逐次其主義ノ大要ヲ叙述セン、

第一、地　論　師　派

地論師派ハ〔オモヘラク〕一切萬物ハ地ニヨリテ生ズルガ故ニ地ヲ以テ一切萬物ノ本源トシ、地ヲ供養スルモノハ解脱ヲ得ベシトスルモノナリ、（大日經義釈巻二）

第二、服水論師派

服水論師派ハオモヘラク〔水ハ〕萬物ノ根本ナリ、〔日本の神話にても、水が国土の本となれり、〕水能ク天地ヲ生ジ、有生無生、一切ノ物ヲ生ジ、下ハ阿鼻地獄 Avichi ヨリ上ハ阿迦尼吒天 Akanishṭha ニ至ルマデ皆水ヲ主ト為ス、水能ク物ヲ生ジ、水能ク物ヲ壞ス、水ハ常住不變ニシテ涅槃ノ因タリト（大日經義釈巻二及ビ外道小乘涅槃論）之レヲ服水ト云フハ〔蓋シ〕萬物ハ水ヲ服用シテ成ルヲ謂フ〔ナラン、服ハ水ニ服事スルノ義也、涅槃經第十六巻（十五左）ニ「四月事レ火、七月服レ風」トアルヲ以テ知ルベシ、故ニ服水ハ事火ト云フガ如ク服事スルヲ謂フナリ、〕萬物ハ水ヨリ生ズルノ説、支那ニモ希臘ニモ〔アリ〕、其暗合、甚ダ奇ナリトス、明ノ葉子奇（字ハ世傑）ガ草木子管窺篇ニ云ク、

天始惟一氣爾、莊子所謂溟涬是也、計二其所レ先、莫レ先二於水一、水中涬濁、歴レ歳既久、積而成レ土、水土震蕩、漸加二凝聚一、水落土出、遂成二山水一、故山形有二波浪之勢一焉、於レ是土之剛者、成レ石而金生焉、土之柔者、生レ木而火生焉、五行既具、廼生二萬物一、萬物化生而變化無レ窮焉、

〔管子水地篇云、

水者何也、萬物之本原也、諸生之宗室也、美悪賢不肖愚俊之所産也、

春秋元命苞云。

水者天地之包幕。五行之始焉。萬物之所由生。元氣之清液也。〕

葉子奇ハ紀元十四紀ノ人ニシテ佛教ノ事モ多少知ラザルニアラザレモ、此思想ハ佛教ヨリ得来タリトハ見エズ、全ク自家獨得ノ見ニ出ヅルモノナリ、希臘ニテハ哲学ノ元〔鼻〕祖タルミレト〔ツス〕府ノターレス氏〔紀元前六百二十四年頃生ル〕水

ヲ以テ萬物ノ由リテ生ゼル本源セトリ、ミレト〔ツ〕府スハ今ノパラチヤ村ニシテ小亞細亞ノ「メアンデル」河ノ河口附近ニアリ、タールレス氏ハフヒニシヤ埃及土等廣ク遊歴シタルモノ、或ハ間接ニ服水論師派ノ影響ヲ受ケタルカ、或ハ單獨ニ考出シタルカ、未ダ其果シテ如何ヲ詳悉スルヲ得ザルナリ、

第三、火論師派

火論師派オモヘラク、火ハ萬物ノ本源ニシテ一切此レヨリ生ズ、火ハ常住不滅ニシテ涅槃ノ因タリト、（大日經義釈巻二）〔釈迦如来、成道記ニ迦葉氏彙レ跡以降レ心、領ニ火徒ニ而回レ席トアリ、其注ニ迦葉氏即事火外道ト云ヘリ、事火外道ノ事ハ方便心論（四右）ニ見ユ、〕其説、頗ルエフェズ、府ノヘラクライトス氏ノ主張セル所ニ類シ、〔ピタゴラス、デモクリタス、ストア学派等皆火を以て原理とせり。〕又ゾロアステル氏ガ創唱ニ係ル拜火教ノ主義ト暗合セリ、或ハ火論師ハ即チ拜火教徒ヲ指シテ云フモノニアラザルヤハ疑ナキニアラ〔ズ〕ザルナリ、〔管閑尹子四符篇云。神者火。云云。以我之神合天地萬物之神。譬如萬火可合為一火。〕

第四、風仙論師派

風仙論師ハ風ヲ以テ世界ノ根本主義トナス、其説ニ云ク、風能ク生物ヲ生長シ能ク生物ヲ殺傷シ、風ハ萬物ヲ造リ能ク萬物ヲ壞ル、風ハ常住不變ニシテ涅槃ノ因タリト、（大日經義釈巻二及ビ外道小乘涅槃論）〔風仙ハ蓋シ時人ガ此派ノ創唱者ニ付與シタル綽号ナラン、〕風ハ即チ空氣ヲ指シテ云フモノナルガ故ニ風仙論師ノ唱道スル所ハミレズ〔ツ〕、府ノアナキシメ子ス氏〔及ビアポロニア府ノヂオゲ子ス氏〕ノ〔ガ〕空氣ハ萬物ノ本源ナリトノ説ト、最モ相類似セリ、

第五、ロ力論師派

ロ力論師派ハ空ヲ以テ萬物ノ本源トスルモノ、其説ニ云ク、〔ロ力論師ニ関スル爭論、哲学雜誌第百十四号ニ見ユ、〕虚空ハ萬物ノ因ナリ、最初ニ虚空ヲ生ジ、虚空ヨリ風ヲ生ジ〔風ヨリ火ヲ生ジ、〕火ヨリ煙ヲ生ジ、煙ヨリ水ヲ生ジ、水即チ凍凌シテ堅マリテ地トナリ、地ヨリ種々ノ藥草ヲ生ジ、種々ノ藥草ヨリ五穀ヲ生ジ、五穀ヨリ生命ヲ生ズ、生命ハ即チ食物ナリ、後時ハ虚空ニ還没ス、虚空ハ常住不變ニシテ涅槃ノ因ナリト（大日經義釈二及ビ外道小乘涅槃論）ロ力ノ義、未ダ考ヘ得ズ、〔ロ力ハ मुख्याण Mukhy prâṇa ノ譯ナリ此語屢〻吠檀多哲学中ニ出ヅ、〕然レモロ力論師派ハ蓋シ亦吠檀達派ニ外ナラズ、吠檀達派ニテハ婆羅吸曼 Brâhman ヲ以テ虚空 âkâsa トシ、一切萬物ハ虚空ヨリ生ズトセリ、然レモ吠吠檀達派ノ所謂虚空ハ吾人ノ今日意味スル眞空絶無ニアラズシテ精氣ヲ謂フ、「タイツチリヤカ、ウパニシヤド」（二、一）ニ云ク「其自己（即チ婆羅吸曼）ヨリ虚空ヲ生ジ、虚空ヨリ〔風ヲ生ジ、〕風ヨリ火ヲ生ジ、火ヨリ水ヲ生ジ、水ヨリ地ヲ生ジ、地ヨリ草木ヲ生ジ、草木ヨリ食物ヲ生ジ、食物ヨリ種子ヲ生ジ、種子ヨリ人ヲ生ズ、」云云ト、以テロ力論師ハ即チ吠檀達派ナルヲ知ル、老子ノ無名、及ビ莊子ノ無々モ亦一切萬物ノ本源ニシテ一切萬物ノ還没スル所ナルガ故ニロ力論師派ノ虚空ニ於ケル観念ト頗ル相類似セルモノアルナリ、成唯識論ニ所謂虚空論ハ即チロ力論師ノ哲学ヲ謂フナリ、

第六、時論師派

時論師派オモヘラク、〔Muir's Sanskrit Text, Vol. V, pp. 407–409 ヲ見ヨ、マイテエル氏ノ字典ゾロアステルノ下

ニ時論師ノ事アリ、」時熟スレバ一切大ナリ、時ハ一切ノ物ヲ作リ、一切ノ物ヲ散ズ、假令ヒ百箭ノ射ヲ被ルモ、時到ラザレバ死セズ、時到レバ小草觸ルヽモ即チ一切ノ物ヲ死セシム、偈アリ、云ク、「時来衆生熟、時至則催促、時能覚二悟人一、是故時為レ因」ト、即チ時ヲ以テ常住不變ニシテ涅槃ノ因タリトナス、其中或ル一派ハ曰ク、一切ノ物ハ時ノ作ル所ニアラズト雖モ、時ハ不變ノ因ニシテ実在タリ、但シ微細ナルガ故ニ見ルベカラザルモ、花実等ノ果アルヲ以テノ故ニ時アルヲ知ルベシ、何ヲ以テノ故ニ、果ヲ見テ因アルヲ知ルガ故ナリ、此時其レ自身ハ不壊ナルガ故ニ常恒ナリト、時論師派ノ中ニモ多少ノ異派アリシモノト見ユ、或ハ此派ヲ時散外道、若クハ計時外道ト云フ、」

第七、方論師派

方論師派オモヘラク、最初ニ諸方ヲ生ジ、諸方ヨリ世間ノ人ヲ生ジ、人ヨリ天地ヲ生ジ、天地滅没スレバ彼處ニ還入ス、諸方ハ常住不變ニシテ涅槃ノ因ナリト、（外道小乘涅槃論）時論師派ガ時間ヲ以テ世界ノ根本主義トセルニ反シテ方論師派ハ空間ヲ以テ世界ノ根本主義トシテ萬物ノ発達ヲ解釈セリ、方論師派ガ人ヨリ天地ヲ生ズト主張スル「甚ダ奇ナリ、或ハ観念論者ノ主張スルガ如ク、天地ヲ以テ主観ノ生ズル所トスル所トスルノ意カ、之レヲ確定スベキ歴史的事実ノ缺乏セルハ最モ遺憾トナス、

第八、無因論師派

各哲学派ガ世界ノ最初ノ原因ヲ探究スルニ当リテ是等ニ反對シテ一切萬物ハ原因ナクシテ自然ニアリトスルモノハ無因論師派ナリ、其説ニヨレバ一切ノ物ハ無因無縁ニシテ生ジ、染因ナク、淨因ナシ、棘刺ノ針ノ如ク、人ノ作レルニ

アラズ、孔雀ノ羽ノ畫色ノ如キ、皆人ノ作ルナク、自然ニシテアリ、因ヨリ生ズルニアラズ、自然ハ常住不變ニシテ涅槃ノ因ナリト、(外道小乘涅槃論) 其因果ヲ否定スル所ハ懷疑論者ノ如ク、其造化ヲ否定スル所ハ唯物論者ノ如ク、其自然ヲ収局ノ目途トスル所ハ老荘ト相似タリ、大日經及ビ成唯識論等ニハ此派ノ主義ヲ自然論ト称セリ〕

第九、本生安茶論師派

本生安茶論師派ハ唱道シテ曰ク、本ト日月星辰虚空及ビ地ナク、唯〻大水アリ、時ニ大安茶 Mahânda 生ズ、雞卵ノ如ク、周匝金色ナリ、時熟シテ破レテ二段トナリ、一段ハ上ニアリテ天トナリ、一段ハ下ニアリテ地トナリ、彼二者ノ中間ニ梵天ヲ生ズ、名ヅケテ一切衆生ノ祖公ト称ス、一切ノ有生無生物ハ梵天ノ造ル所ナリ、是レ如キ有生無生物ガ彼處ニ散没スルヲ涅槃トナス、大安茶出生ノ梵天ハ常住不變ニシテ涅槃ノ因タリト (外道小乘濕〔涅〕槃論) 〔清涼玄八ニ出ヅ〕成唯識論ニハ之レヲ本際論ト云ヘリ、本際ハ過去ノ初首ノ義ナリ、大安茶ニヨリテ世界ノ本源ヲ解釈スルモノナルガ故ニ之レニ附スル二本際論ノ名ヲ以テセリ、此派ノ世界開闢ヲ論ズル所、列子ガ「清軟〔輕〕者上為レ天、濁重者下為レ地」ト云ヘルト、相類ス、又アポロニア府ノゲオゲ子ス氏モ稠密ナルモノハ下降シ、輕鬆ナルモノハ上昇シ、此ノ如クニシテ天地成レリトセリ、氏ハ空気ヲ以テ世界ノ主義トスレモ、其世界開闢ノ観念ハ安茶論師派ト大差ナキナリ、

第十、斫婆迦派

斫婆迦 Châryâka ハ創唱者ノ名ニシテ其学派ヲ斫婆迦派ト云フ、所謂順世外道、是レナリ、成唯識論ニハ十三種ノ外

道ヲ挙ゲテ最後ニ順世外道ヲ論破シ、摩陁婆ノ哲学纂論ニハ第一ニ破〔研〕婆迦派ヲ挙ゲテ其主義ヲ叙述セリ、研婆迦派一名ヲ路伽耶陁 Lôkâyata ト云フ、〔(一説ニ路伽耶他ハ研婆迦派ノ一分派ナリト云フ、)〕路伽 lôka ハ世界ノ義、阿耶陁 âyata ハ流布ノ義、故ニ路伽耶陁ハ世界ニ流布スト云フ「ナリ、故ニ支那訳ノ佛書ニ之レヲ順世外道ト称セリ、順世ハ研婆迦ノ訳ニアラズシテ路伽耶陁ノ訳ナリ、或ハ又研婆迦派ヲ路迦也底迦 Lôkâyatika ト云フ、其意、路伽耶陁ニ同ジ、路伽耶陁ニ反スル一派ヲ縛摩路迦也底迦ト云フ、法華玄賛九(二)ニ云ク、

路伽耶陁者、先云二悪答對人一、正言路迦、云二順世外道一、逆路伽耶陁者、先云二悪徴問人一、正言縛摩路迦也底迦、云二左順世外道一、執與レ前乖者、名二左順世一也、

蓋シ同一ノ研婆迦派ノ中ニ此ノ如ク相反スル二種ノ分派アリシモノナラン、研婆迦派ハ一時印度ニ多少ノ勢力ヲ有シタルモノト見エ、佛教徒ハ之レヲ排斥スルノ必要ニ迫マレリ、此派ハ蓋シ勿哩〔利〕訶娑跋〔斯波〕底 Bṛihaspatya ト云ヘル人ノ学説ニ本イテ起レリ、勿氏ハ婆訶娑跋〔斯波〕底經 Bârhaspatya-Sûtra ト云ヘル著書モアリテ鬱然一派ヲ成シタルモ、該書モ今ハ残欠ノ外傳ハラズ、研婆迦ハ其主義ヲ勿氏ヨリ得来タルモノナルガ故ニ、或ハ氏ノ言ヲ引イテ自家ノ説ヲ証明セリ、今〔摩陁婆ノ哲学纂論ニ據リ〕研婆迦派ノ学説ヲ明瞭ニセンガ為メニ之レヲ五段ニ分チテ叙述セン、

第一、智識論……研婆迦派ハ一切ノ量ノ中唯〻証量 Pratyakska 即チ直接ノ知覚〔識〕ノミヲ取リテ其他ハ盡ク之レヲ取ラズ、然ルニ反對者或ハ云ハク「果シテ然ルカ、若シ比量等ガ証明トシテ何等ノ効力ヲモ有セザルモノナラバ、汝ノ欲スル所ハ得ラルベケレモ、彼等ハ此ノ如キ効力ヲ有スルヲ奈何セン、若シ彼等ガ効力ヲ有セザルナラバ何故煙ヲ知覚スルニ当リテ有知者ノ思想ガ直ニ火ニ進行スルヤ、又何故他人ガ河岸ニ菓アリト云フヲ聞クニ当リテ菓ヲ欲ス

ルモノガ忽チ〔其〕渚ニ進行スルヤト、然レモ斫婆迦派ハ總ベテ是等ノ事ヲ以テ戯想界ノ虚誕トシテ比量ノ如キ証量以外ノ量ニ依頼スルヿヲ否定セリ、其説ニ據レバ、比量ノ効力アルヿヲ主張スルモノハ記號即チ中名辞ヲ以テ智識ヲ惹起スルモノトス、然ルニ中名辞ハ小名辞ノ中ニ存シ、且ツ大名辞ト不變的連絡ヲ有セザルヲ得ズ、然レモ此ノ如キ連絡ハ爭論ノ要點ニ就イテ何等ノ價値ヲモ有セズ、何ントナレバ、此ノ如キ連絡ガアリタリトテ其レガ比量ニ効力ヲ付與スルニアラザレバナリ、然ラバ此ノ如キ連絡ハ何等ノ方便ニヨリ知ラルヽカ、是レ決シテ知覚ニアラズ、知覚ニ二種アリ、一ハ内面的、一ハ外面的、前者ハ此場合ニ適切ナル方便ニアラズ、感覚ト客観ノ現実ニ於ケル觸接ハ此ノ如ク觸接セラレタル客観ノ智識ヲ生ズベシト雖モ、過去ト未来ニ関シテ此ノ如キ觸接アルヿナク、中名辞ト大名辞ノ不變的連絡ヲ包含スベキ全稱命題ハ之レヲ知ルヲ得ザルナリ、又全稱題命ノ智識ハ一般ノ部類ヲ以テ其對象トナスト云フヲ得ズ、若シ此ノ如クナルキハ此特殊ノ場合ニ於ケル不變的連絡……例ヘバ此特殊ノ煙ハ火アルヲ音〔意〕味ストスルガ如キ連絡……ノ存否ニ就イテ疑ヲ生ズベケレバナリ、然レモ又内面的知覚ハ其方便ニアラズ、論理学者ガ「同〔目〕等ハ真對象ヲ描写スレモ、心意ハ外面上他ノ物ニ依從ス」ト云ヘル如ク、心意ノ外面的感覚ニ依從スルヿハ衆ノ均シク許容スル所ニシテ心意ハ獨立的ニ外面的對象ニ向ヒテ発動スル能力ヲ有セザルナリ、又此量ヲ以テ全稱命題ノ智識ノ方便トスルヲ得ズ、若シ假リニ然リトセバ、此比量ハ又他ノ比量ヲ要シ、他ノ比量ハ又他ノ比量ヲ要シ、此ノ如クニシテ無限退歩ノ虚偽ニ陥ルベケレバナリ、聖教量モ亦之レガ方便トスルヲ得ズ、吾人ハ或ハ勝論派ト同ジク、是レ已〔ニ〕比量中ニ含有セラルトスベク、或ハ記号タル言語ノ認識ニ依從スルガ故ニ矢張困難ヲ脱却スルヿ能ハズ、若シ聖教量ヲ以テ全稱命題ノ智識ヲ得ベキ唯一ノ方便トセバ中名辞ト大名辞ノ間ニ不變的連絡アルヿヲ示サレザル場合ニアリテハ一箇ノ物ヨリ他ノ物ニ推度スルヿ出来ザルベキナリ、譬喩量ノ如キハ全稱命題ノ智識ノ方便

トシテハ全ク放棄スベキモノナリ、何ントナレバ譬喩量ハ全ク他ノ連絡ノ智識ヲ生ズベキモノナルガ故ニ絶對ノ連絡即チ全稱命題ノ智識ヲ生スベキモノニアラザレバナリ、此ノ如ク全稱全〔命〕題ノ智識ハ出来得ベカラザルガ故ニ比量ハ到底効力アル智識トシテ成立セザルヲ知ルナリ、是故ニ斫婆迦派ハ單ニ現在ニ於ケル直接ノ智識ノミヲ正確ナリトス、然ルニ此ノ如キ智識ハ必ズ特殊的ニシテ一般的ニアラザルガ故ニ彼等ノ正確ナリトスル智識ハ獨リ特殊的ノモノニ限ルナリ、〔大日經ニ所謂外知論ハ或ハ斫婆迦派ノ智識論ヲ謂フモノナランカ、〕

第二、唯物論……斫婆迦派ニアリテハ地水火風ノ四大ハ世界ノ根本主義〔原理〕ナリ、若シ是等ガ結合シテ身体ヲ成ストキハ智識ヲ生ズ、譬ヘバ猶ホ幾多ノ成分ヲ混和スルトキハ麻醉力ヲ生ズルガゴトシ、若シ是等ノ結合ガ破壞サルヽトキハ、智識ハ忽チ断滅シ了ハル、彼等ハ「ブリハドアーラニヤ、ウパニシヤド」（二、四、十二）ニ「智識ハ是等ノ諸元素ヨリ生ジテ又之レニ還没ス、命終ノ後、復タ智識アルニアラズ」トアルヲ引イテ自家唱フル所ノ証トセリ、彼等オモヘラク自〔身〕体ヲ離レテ別ニ精神アルニアラズ、精神ハ即チ身体ノ智識ヲ具有スルモノニ過ギザルナリト、此レニ由リテ之レヲ観レバ斫婆迦派ノ主義ノ純然タル唯物論ナル〕復タ疑ヲ容レザルナリ、

第三、自然論……彼等又オモヘラク、不可思議力 Adrishṭa ノ如キハ唯〻比量ノミニヨリテ証セラルベキモノナルガ故ニ之レヲ否定セザルベカラズ、反對者ハ云ハン、若シ汝ノ如ク不可思議力ヲ許容セザル以上ハ世界ノ種々ナル現象ハ何等ノ原因モ有セザル〕トナラント、然レモ此反對論ハ價値アルモノニアラズ、何ントナレバ、是等ノ現象ハ一切自然発動ニヨリテ物ノ固有性ヨリ生ズルヲ得ベケレバナリ、是ニ至リテ斫婆迦派ノ唱フル所ハ自然論ナルヲ知ル、大日經、唯識論等ノ所謂自然論、瑜伽論顕揚論外道小乘涅槃論等ノ所謂無因論ハ或ハ此派ヲ指シテ云フモノナランカ、斫婆迦派ハ世界ノアラユル現象ハ自然ニ生ズルモノニシテ別ニ之レヲ惹起スルノ主宰アリトセザルガ故ニ其無神論者

ナルヿ推シテ知ルベキナリ、

第四、快楽論……恰モ希臘ノデモクトス、ロイキップス及ビエピクルス諸氏ノ原子論ガ快楽論 Hedonismus ニ陥イリタルガ如ク、斫婆迦派ノ原子論モ亦快楽論ニ陥レリ、彼等オモヘラク、人類唯一ノ目的ハ肉体ノ快楽ヲ得ルニアリ、若シ現在ノ現在ノ快樂ヲ放棄スルガ如ク怯膽ナルモノナラバ獸類ノ如ク愚ナリト謂フベシト、彼等ガ又勿利訶斯沈底ノ「生命ノ續ク限リ、生命ヲ安逸及ビ誤〔娯〕樂中ニ送ラシメヨ」云云「若シ一タビ此身ガ塵土トナルキハ如何ンシテ再ビ地上ニ来タルヲ得ン〔ヤ〕ト云ヘル誤〔語〕ヲ引イテ自家ノ説ヲ証スルニ至リテハ楊子及ビアリスチップス氏ノ極端ノ快樂〔論〕ト同一轍〔轍〕ニ出ヅルモノト謂フヲ得ベシ、是蓋シ肉慾厲殺ノ如キ惨烈ナル禁慾主義ノ流行ニ對シ、反動トシテ起レルナラン、彼等ハ現在ノ快樂ヲ享受スルヲ以テ唯一ノ目的トスルガ故ニ現在荊〔棘〕刺〔ノ〕等ニヨリテ生ゼラレタル苦痛ノ外、別ニ地獄アリトセズ、地上ノ国王ハ衆人ノ瞻仰スル所ナルガ故ニ之レヲ以テ唯一ノ最上実在トシ、其上ニ更ニ他ノ無形ノ実在アリトゼズ、又解脱トシテハ唯〻身体ノ溶解アル而已トセリ、

第十一、若提子派

哲学派ノ分類ノ中ニ叙述セルガ如ク提婆ノ外道小乘四宗論ニハ若提子論師 Jnâti-putras ヲ挙ゲヲ僧佉毗世子、尼乾子ノ三論師ト其説ヲ異ニスルモノトセリ、（渡邊国武氏ノ印度哲学小史モ四宗論ニ本イテ尼乾子ト若提子トヲ区別セリ、）然レモ尼犍子ト若提子トハ果シテ全ク別派ナルカ、此事頗ル疑ハシ、維摩經ニ六師ヲ挙ゲ尼犍陁若提子 Nirgrantha Jnâtiputra ヲ以テ第六トセリ、注ニ羅什曰ク「尼犍陁字也提母名也」ト、尼犍陁ヲ以テ字トスルヿ妥当ナラザルモ、若提ノ姓タルヿ疑フベカラズ、僧肇曰ク「尼犍陁、其出家總名也、如三佛法出家名二沙門一、若提母名也」ト、此説是ナリ、尼犍陁ハ宗派ノ名ナレバナリ、慧琳ノ

音義廿六（六左）ニモ「尼乾陁、此云二無繼一、是外道總名也、若提云二親友一、是母名」ト云ヘリ、是故ニ若提子ハ即チ尼犍子ナリ、尼犍子ト若提子トヲ分チテ二派トナスヲ得ザルナリ、若提子ノ教義トスル所ハ全ク闍伊那教ト合一ス、羅什曰ク「其人起レ見、謂罪福苦樂、盡由二前世一、要二必償一、今雖レ行レ道、不レ能二中斷一」ト、僧肇及ビ慧琳ノ述ブル所モ之レト大同小異、要スルニ、罪福苦樂、皆前世ヨリ定マレルモノナルガ故ニ、唯〻之レヲ受クルヨリ外之レナク、能ク之レヲ變更スベカラズトスルモノ、即チ瑜伽論ニ所謂諸因宿作論ナリ、故ニ若提子ノ尼犍子タルヿ疑ナキナリ、阿闍蘭經中ニ摩訶毗羅ヲ若那多利弗咀羅 Jnâtri-putra ト称スルヿ二回アリ、若提子 Jnâti-putra ハ蓋シ若那多利弗咀羅ノ訛ナラン、ビューレル氏モ尼犍陁若提子 Nirgrantha Jnâtiputra ヲ以テ闍伊那派ノ創唱者タル摩訶毗羅トセリ (See Barth's Beligions of India p. 150) 若提 Jnâti 正シクハ若那多利 Jnâtri ハ羅闍鋪 Rajput 種族ノヿナリ、（刹利ヨリ派生セリト称スル種姓ナリ、）故ニ尼犍陁若提子ハ羅闍鋪種族ニ属スル尼犍子ノ義ニシテ即チ闍伊那派ノ創唱者タル摩訶毗羅ヲ指シテ謂フモノナリ、然ルニ提婆ノ外道小乘四宗論ニ尼犍子ト若提子ヲ分チテ二派トシタルハ最モ解シ難シ、或ハ同一ノ尼犍子派中ニ分派アルヲ見テ此ノ如ク分別シタルモノナランカ、四宗論ニ據レバ若提子ハ尼犍子ガ亦一亦異ノ説ニ反シテ一切法ハ不一不異ナリトス、一切法ハ一体ト云ハントスレバ、萬物歴然タリ、若シ異体ト云ハントスレバ、彼此相竢チテ成立ス、一切法ハ一体ナリト云フモ非ナリ、一切法ハ異体ナリト云フモ非ナリ、二説共ニ非ナル以上ハ此〔両〕者ヲ合一シタル亦一亦異ノ説モ亦非ナリ、是等三説ハ皆過失アルガ故ニ一体ト説クベカラズ、異体ト説クベカラズ、亦一亦異ト説クベカラズ、是故ニ智者ハ此三説ヲ離レ、不一不異ニ住スト云ヒテ寂黙無〔言〕ヲ守ル、嘉祥ノ百論疏上中（三十右）ニ據レバ、若提子論師ニ六障六自在ノ説アリ、六障トハ第一ニ不見障、第二ニ苦受障、第三ニ愚癡障、第四ニ命盡障、第五ニ不得好性障、第六ニ悪名障、是レナリ、若シ此六障ニ反スルトキハ即チ六自在ナリ、然ルニ此ニ若提

子論師ノ六障トスル所ハ尼犍子派ニモ亦之レアリ、百論疏上中(十七左)ニ尼犍子派ニ五智六障四濁アルヲ論ゼリ、此レニ由リテ之レヲ考フルモ、若提子ト尼犍子ト〔ノ〕間ニ親密ノ関係アルヲ知ルベキナリ、

第十二、波 爾 尼 派

摩陁婆ノ哲学纂論ニハ波爾尼派〔Pâṇinîya〕ヲ以テ第十三トシテ叙述セリ、〔波爾尼派ハ波爾尼 Pâṇini 所ノ創設スル所ニ係ル〕波爾尼ハ印度最古ノ文法学者ナリ、傳説ニ據レバ、彼レハ波紙 Paṇin ト云ヘル人ノ后裔ニシテ立法者タル提婆羅 Devala ノ孫ナリ、父ノ名ハ詳ナラザレモ、母ハ駄瑟 Dâkshî ト云フ、故ニ又彼レヲ駄逝耶 Dâksheya ト称ス、彼レハパンジャブノ北部ニ属スル乾陁羅國 Gândkâra ノ都府娑羅都羅底 Sâlâtura ニ生マル、故ニ又娑羅都梨耶 Sâlâturiya ト称ス彼レノ時代ハ今ニ至リテ確定セラレズ、或ハ〔紀元前〕六世紀ノ人ト云ヒ、或ハ〔紀元前〕四世紀ノ人ト云ヒ、諸説紛々、ゴルドスツュケル氏ハ釈迦以前ノ人ナリトセリ、吾人ハ姑ク氏ニ従ハン、波爾尼ニ著書アリ、阿濕他闍伊 Ashṭâdhyâyî 又阿濕他頷波尼々琰 Ashṭakam Pâṇinîyam ト云フ、印度人著書中最モ創見多キモノ、一ナリト云フ、

波爾尼ハ元来文法家ナレバ哲学上ニ直接ノ関係ナキガ如クナレモ、其文法上ノ学説ハ深遠ナル哲学的意義ヲ有シ、吠檀達派トハ其出立點ヲ異ニスレモ、其歸着點ヲ同ウシ、遂ニ萬有本体タル婆羅吸曼ノ観念ニ到達セリ、波爾尼ノ説ニ據レバ、常住ノ声ヲ塞普多〔塞普多、当レ作ニ塞鋪他一〕sphoṭa ト云フ、如〔何〕ナル言葉モ塞普多ナキモノニアラズ、今茲ニ「ウシ」ト云ヘル語アルトキハ吾人ハ此言葉ノ成分タル文字ヲ離レテ別ニ此言葉ノ意義ヲ認識スルナリ、此ノ如キ知覚分明ナル撞着ナク虚妄ノ知覚ナリト云フヲ得ズ、故ニ塞普多アリトスルニアラザレバ吾人ガ言葉ノ意義ヲ

認識スルヿ如何ンシテ解釈スベキカ、或ハ此ノ如キ認識ハ文字ヨリ起ルト思惟スルモノアルベケレモ、是レ決シテ然ラズ、此ノ如キ認識ハ文字ガ合一シテ生ズルカ、又ハ單獨ニ生ズルカ、文字ハ唯〻刹那々々ニ孤立スルガ故ニ合一セル全部ヲ成スヿ能ハズ、然レモ又孤立セル文字ハ意義ノ認識ヲ生ズベキ力ヲ有セズ、是故ニ意義ノ認識ハ文字ノ然ラシムル所ニアラズ、果シテ然ラバ吾人ヲシテ意義ヲ認識セシムル所ノ塞普多ナカルベカラズ、塞普多ハ文字ト異ニシテ文字ニヨリ〔テ〕啓示セラル、常住ノ声ナリ、吾人ハ此レニヨリテ意義ヲ認識スルヲ得ルナリ、塞普多ハ啓示ノ義ナリ、之レヲ然ク称スル所以ハ是レ文字ニヨリテ啓示セラル、故ニ塞普多ト云フ、或ハ又意義ガ此レニヨリテ啓示セラル、ガ故ニ塞普多ト云フ、文字ハ如何ニ塞普多ヲ啓示スルカ、第一ノ文字ガ其啓示力ニヨリテ不可見ノ塞普多ヲ啓示シ、之レニ次グ所ノ文字ガ此塞普多ヲ益〻啓示スルヿ、猶ホ宝玉ノ眞珠ハ初メ之レヲ瞥見シタルトキニハ詳悉ナラザルモ、最後ノ検査ニ至リテ確定セラル、ガゴトシ、文字ハ言葉ノ意義ヲ啓示スルモノニアラザルガ故ニ、吾人ハ言葉ノ意義ヲ啓示スベキ力ヲ有スル不可分ノ塞普多ガ明晰ナル範疇トシテ実在セルヲ是定セザルヲ得ズ、一切ノ言葉ノ意義ハ畢竟最上類 summum geuns〔ナリ、〕、即チ最上ノ実在ナリ、即チ婆羅吸曼ナリ、之レヲ譬フルニ、猶ホ無色ノ水晶ガ各種ノ對象ニ感染セラレ、為メニ青赤黄等ノ色ヲ有スルガゴトク、婆羅吸曼ハ各種ノ對象ニヨリテ認識セラレ、各種ノ對象ト同一視セラル、是故ニ吾人ハ各種ノ對象ニヨリテ各種ノ言葉ヲ用フレモ、畢竟是レ実在ナリ、若シ茫粋ニシテ單純ナル実在ガ、其各種ノ對象ト関係アルガ為メニ牛馬等ノ如キ特殊ノ物質ニ於テ発見セラル、トキハ之レガ為メニ、差別セラレ、此種彼種ト称スルガ故ニ一切ノ言葉ハ之レニ從ヒテ成ル、然レモ之レニ共通ナルモノハ即チ実在ナリ、即チ最大精神ナリ、実在ハ牛馬等ノ如キ分化セル各種ノ對象中ニ発見サルベキ最上類ナリ、是故ニ一定ノ意義ヲ有スル一切ノ言葉ハ畢竟最上類タル実在ニ俊存スルモノナリ、最上類タル実在トハ何ヲカ云フヤ、婆羅吸曼是

レナリ、婆羅吸曼ハ一切ノ言葉ガ意味スル唯一ノ對象ナリ、此唯一ノ對象ガ差別相ヲ有スルハ全ク無明ニ本ヅク、恰モ一切延長セル夢ノ世界ガ、唯迷妄ノ発達ニ過ギザルガ如ク、一切此延長セル覚ノ世界モ亦之レト同様ナル迷妄ノ発達ナリ、若シ常住不變ナル最上ノ婆羅吸曼ガ実在セル歓喜思想トシテ又個人ノ精神ト同一体ナリトシテ知ラルヽ時、即チ本来ノ無明ガ打破サルヽ時、此時始メテ解脱スルヲ得、解脱トハ此婆羅吸曼ト合一スルヲ謂フ、經ニ云ク「能ク言葉ノ婆羅吸曼ヲ暁得スルモノハ最上ノ婆羅吸曼ニ到達ス、」(梅怛麗優波尼沙土第六篇第二十二)ト、波爾尼ハ此ノ如ク言葉ノ叙述ヲ以テ解脱ノ方便トセリ、(摩陁婆ノ哲学纂論)

波爾尼派ガ塞普多即チ常住ノ声ノ説ヲ主張シ、声ノ常住ナルヤ否ヤハ詳論セズ、是ニ声ハ常住ナルモノナリト假定セルヲ以テ之レヲ観レバ、弭曼薩派ノ主義ヲ奉ジテ起ルモノナラン、殊ニ其婆羅吸曼ヲ以テ萬有本体トスル観念ノ如キハ吠檀達派ノト、些ノ異同アルヲ見ズ、其当時ノ異端ナラザルヿ、推シテ知ルベキナリ、然ルニ波爾尼派ガ最モ吾人ノ注意ヲ惹起スルハ其本体論 Realismus ヲ主張シテ当時ノ名目論 Nominalismus ニ反對セシヿ是レナリ、毗耶提 Vyâdi オモヘラク、言葉ハ單獨ノ物ヲ意味スルモノニテ類ヲ意味スルニアラズ、然レモ類ハ特質トシテ含蓄セラルト、毗耶提ハ如何ナル学派ノ人ナルヤヲ知ラズ、但シ尼夜耶派ガ弭曼薩派ニ反シテ言葉ハ單獨ノ物ヲ意味シ、類ヲ意味スルニアラズトセリ、毗耶提及ビ尼夜耶派ガ主張スル所ハロスツェリヌスオツカム諸氏ガ中世ニ当リテ唱道セル名目論ト其趣ヲ同ウセリ、毗耶提ガ類ハ特質トシテ含蓄セラルトスルノ意、明瞭ナラズ、然レモ恐クハ結論ニヨリテ始メテ知ルヿヲ得ルノ意ナラン、果シテ然ラバ是レ一般ハ後天ナリ universalia post rem ヲ預想スルモノナリ、之レニ反シテ波爾尼ガ主張スル所ハ一切ノ言葉ハ畢竟最上類即チ最上ノ実在ヲ意味スルガ故ニ極端ノ本体論ニシテ一般ハ先天ナリ、universalia post [ante] rem ヲ預想セリ、婆闍畢耶延那 Vâjapyâyana オモヘラク、各個ノ言葉ハ一類ヲ

意味ス、例ヘバ、牛等ト云ヘル言葉ノ如キハ特殊ノ物質ニ共通ナル一類ヲ意味スルモノニテ若シ此一類ヲ領解セバ、此関係ニヨリテ特殊ノ物質ヲ領解スルヲ得、又白等ト云ヘル言葉ノ如キハ特殊ノ性質ニ共通ナル一類ヲ意味スルモノニテ、此類ニヨリテ其性質ヲ領解シ、其性質ニヨリテ特殊ノ物質ヲ領解スルヲ得、此ノ如クニシテ如何ナル言葉モ各〻一類ヲ意味セザルナシト、是レ即チ本体論者ノ温和ナル者ニシテ一般ニ〔ハ〕物ニアル universalia in re ヲ預想スルニ似タリ、是等ハ東西ノ暗合ト雖モ、亦思想発達ノ自然同一轍ニ出ヅルモノアルヲ知ルベキナリ、

第十三、毗〔婆伊〕濕奴〔那婆〕派

婆羅門經ニアリテハ婆羅賀磨、毗濕奴及ビ濕婆ヲ一体三分ト称シ、古来之レヲ諸神中ノ最大ナルモノトシテ崇拝シ来レリ、然ルニ婆羅賀磨ハ抽象的ノ絶對タル婆羅吸曼トシテ吠檀派ノ哲学中ニ重要ナル地位ヲ占ムルノ外具体的ノ人格ヲ有スル神トシテハ崇拝者ガ意外ニモ僅少ナリ、唯〻補濕伽羅 Pushkara（アージミール附近）及ビイドゥル Idur ノ二ケ所ニ於テ崇拝者アルノミ、是レ婆羅賀磨ハ造物者トシテ已ニ其業務ヲ成遂ゲタリトスレバナリ、毗濕奴ト濕婆ヲ崇拝スルモノハ、其数極メテ多ク、分レテ二派トナリテ對立ス、毗濕奴ヲ崇拝スルモノヲ毗〔婆伊〕濕那婆 Vaishnava ト云ヒ、濕婆ヲ崇拝スルモノヲ晒婆 Saiva ト云フ、猶ホ毗濕奴派濕婆〔派〕ト云フガゴトシ、毗濕婆〔奴〕ハ吠陀教ノ時代ヨリ之レアレモ、其崇拝ハ釈迦在世ノ時ヨリ旃陀羅毳多 Chandragupta（紀元前三百十五年乃至二百九十一年）ノ時マデニ廣ク印度國民中ニ傳播セリ、(Siehe Lassen's Ind. Alterth. Bd. II. S. 465) 是レヨリ以後毗〔婆伊〕濕奴〔那婆〕派益〻盛ニシテ今日ニ至レリ、其分派數多アリト雖モ、重要ナルモノハ六〔七〕種ニ過キズ

第一、藍摩奴闍派 Râmânuja……藍摩奴闍ノ創唱スル所ニ係ル、

第二、藍摩難陁派 Râmânanda……藍摩奴闍ノ徒弟、藍摩難陁ノ創唱スル所ニシテ殑伽河邊ニ蔓延セリ、

第三、カビール派 Kabir ……藍摩難陁ノ十二第子中最モ有名ナルカビール氏ノ一派ナリ、氏ハ生レハ回々教徒ニシテ十四紀ノ末ニ生存セリ、

第四、伐羅婆闍梨耶派 Vallabhâchârya …伐羅婆闍梨耶ノ創唱スル所ニ係ル、彼レハ千四百七十九年ニ生レ、濕婆派ト論難シテ大ニ勝難シテ大ニ勝利ヲ得、八十四人ノ弟子ヲ遺セリ、

第五、摩突〔杜〕婆派 Mâdhva……摩突〔杜〕婆闍梨耶ノ創唱スル所ニ係ル、

第五〔六〕制他尼耶派 Chaitanya……訖利濕那ノ化身ト称スル制他尼耶ノ一派ナリ、

〔第七、波利伐羅勺迦派 Parivrâjika…其起原及ビ学説共ニ詳ナラズ、〕

六〔七〕派ノ中哲学派トシテ最モ吾人ノ注意ヲ惹クモノハ第一ト第五ノ二派ナリ、此二派ハ摩他婆モ哲学纂論中ニ獨立セル学派トシテ叙述セリ、

第十四、藍摩奴闍派

藍摩奴闍派ハ毗〔婆伊〕濕那婆派中ノ一派ニシテ藍摩奴闍 Râmânuja ノ創唱スル所ニ係ル、彼レノ事蹟ハ詳ナラズト雖モ、彼レガ毗〔婆伊〕濕那婆派ノ革新者タリシヿ疑ナキヿナリ、彼レハ南方印度ニ出デタル人ニテ、或ハ紀元十二世〔紀〕ノ中頃ニ生存セリト云ヒ（ウォルソン氏）、或ハ〔紀元〕十二世紀ノ末ニ生存セリト云フ（モニエル、ウォルリャムス氏）、今其学説ノ大要ヲ左ニ叙述セン、

藍摩奴闍ハ三諦ヲ立テ、世界ヲ解釈ス、三諦ハ第一ハ精神、即チ主観ナリ、即チ個体精神ヲ謂フナリ、第二ハ非精

神、即チ客観ナリ、即チ可見ノ世界ヲ謂フナリ、第三ハ主宰ナリ、即チ最上精神ヲ謂フナリ、吠檀達派ニアリテハ婆羅吸曼 Brâhman ヲ最上精神トスレヒ、藍摩奴闍派ニアリテハ曷利 Hari 即チ毗濕奴 Vishṇu ヲ以テ最上精神トスルナリ、個体精神ト最上精神ノ関係ハ、個体精神ハ最上最神ノ身体ニシテ最上精神ハ一切個体精神ノ精神ナリ、個体精神ノ身体タル一切ノ現象ハ最上精神ノ発表ニ過ギズ、人天ノ別ナク、一切ノ現象ガ個体精神ノ身体タルガ如ク、是等ハ總ベテ最上精神ノ身体ニシテ全ク最上精神ト同一体タリ、天人、夜叉、畢舎遮、龍神、羅刹、鳥、樹、石、草、瓶、布等ノ言葉ハ何ヅレモ特殊ノ身体ヲ有スル個体精神ヲ意味セザルナク、此ノ如クニシテ一切ノモノハ畢竟其中ニアリテ支配スル最上精神ニ歸ス、換言スレバ、如何ナルモノモ、萬有主宰ト異ナル「ナク、一切ノ言葉ハ畢竟最上精神ヲ意味スルナリ、還没ハ萬有ガ名称ト形体ノ差別ヲ失ヒ、知覚スベカラザル状態ニ復歸シ、單ニ流出的原因タル絶對精神トシテ存スルキ之レアリ、造化ハ絶對精神流出ノ結果トシテ萬有ニ名稱ト形体ノ差別ヲ生ジ、此ノ如クニシテ絶對精神ガ知覚サルベキ状態〔トナル〕ナリ、是故ニ原因モ結果モ、創世如何ニヨリテ之レヲ観レバ同一ニシテ、アラユル差別現象ハ其有情ト無情ヲ論ゼズ、一切最上精神ノ身体タリ、英國ノ詩人ポープ氏ガ

Whose body nature is, and God the soul.

ト云ヒシガ如ク、最上精神ハ名称ト形体ノ差別ヲ有スル萬有ノ〔中ニ於ケル〕精神ナリ、最上精神ヲ除イテ別ニ眞実ノモノアルニアラザルナリ、故ニ精神、非精神、及ビ主宰ノ三諦ヲ立ツレヒ、之レヲ根底ニ歸スレバ唯一ノ最上精神アルノミ、故ニ此點ヨリ之レヲ云ヘバ、吠檀達派ノ哲学ト同ジク一元論ト云ハザルベカラズ、然レヒ又精神、非精神及ビ主宰ノ本性ニ差別ナキニアラズ、其根底ノ同一ナルガ為メニ、其差別ノ本性ヲ看過スベキニアラザルナリ、第一、個体精神ハ元来規定ノ純智ヲ有スレヒ、無始ヨリ無明ニ壅蔽セラレ、其法非法ノ程度ニ従ヒテ智識ノ伸縮ヲ免レ

ズ、個体精神ハ果報ヲ享受スルモノニテ、其法非法如何ニヨリテ苦樂ヲ經過シタル後、始メテ主宰ノ智識ヲ得ルニ至ルナリ、第二、非精神ハ應報ノ對象即チ苦樂ノ經驗ノ對象ニシテ無覚ナルヿ、人生ノ目的ニ裨補ナキヿ、改變ノ出来得ベキヿ等ハ其固有性ナリ、第三、最上精神ハ実在ニシテ精神非精神両者ノ内面的支配者ナリ、全智ノ無限光榮、統権、威勢、権力、光耀、及ビ其他無數ノ吉祥性アリテ、精神ト非精神ノ別ナク、凡ソ已レト異ナルモノハ如何ナルモノモ隨意ニ創造シ、比較ナキ無限ノ粧飾ヲ有シ、單獨ナリ、一様ナリ、又神聖ナリ、故ニ藍摩奴闍派ノ三諦ハ婆羅門神話ノ一体三分 Trimûrti 佛教ノ三身 Trikâya 基督教ノ三位一体 Trinitas ノ如ク平等ニシテ差別アリ、差別アレ𪜈平等ナリ、故ニ其差別ニ拘泥シテ其平等ヲ忘ルベカラズ、又其平等ニ拘泥シテ〔其〕差別ヲ忘ルベカラズ、今之レヲ表ニスレバ、

三諦
- (一) 精神（主観）……個体精神
- (二) 非精神（客観）…自然世界
- (三) 主宰（実在）……最上精神（曷利即チ毗濕奴）

現象世界 ／ 一元（平等無差別）

個体精神ハ最上精神ノ身体ナレ𪜈、又最上精神ト異ナリ、梨倶吠陁 Rig-Veda 第一篇百六十四章第廿節ニ「二個之鳥、伴侶、朋友、」云々ト云ヒ、迦那陁ノ格言ニモ、精神ハ事情ノ駁雜ナルガ為メニ駁雜ナリトセリ、以テ証スベシ、個体精神ハ又常住不滅ナリ、薄伽梵歌 Bhagavadgîtâ 第二章第廿節ニ云ク、「精神ハ生レタルニアラズ、又死スルニアラズ又生存シ来タリテ此レヨリ生存セザルモノニアラズ、不生、不變、常恒、原本ニシテ身体ガ殺サルヽ𪜈ニ殺サレザルナリ」ト、若シ精神ガ常住不滅ノモノニアラザル𪜈ハ、法非法ニ相当スル應報ナカルベキナリ、個体精神ハ又最微ノモノナリ、古典ニモ一毛ノ百分ノ一ガ更ニ百分ニ分割セラルヽ𪜈ハ個体精神ハ其一分ナリトアリ、非精神ト称

スル此可見的ノ無覚世界ハ三種ノ部分ヨリ成ル、一ハ對象、二ハ方便、三ハ應報ノ場處、是レナリ、此世界ノ能成的及ビ材料的原因ハ即チ主宰ナリ、或ハ之レヲ婆藪天 Vâsudeva（訖利濕那ノ父）ト云ヒ、或ハ之レヲ「プルショッタス」（ママ）Purushottama（各種精神中ノ最モ優美ナルモノ、義）ト云フ、皆毗濕奴ノ異名ナリ、此学派ノ教ニ據レバ、毗濕奴ハ即チ最上精神ニシテ無限ノ慈悲〔心〕ヲ有シ、若シ能ク之レニ事フルモノアレバ其功勞如何ニ從ヒテ應報ヲ付与スルモノナリ、其存在ニ五種ノ状態アリ、

第一、崇拜ノ状態トシテ、即チ偶像ノ如キモノヲ謂フナリ、

第二、流出ノ状態トシテ即チ藍摩 Râma 等ノ如キ化身ヲ謂フナリ、

第三、啓示ノ状態トシテ、即チ婆藪天 Vâsudeva 珊伽婆那 Sankarshana（毗濕奴ノ第一子）波羅贍那 Pradyumna（訖利濕那ノ子）阿尼樓駄〔Aniruddha〕（訖利濕那ノ孫）ノ四種ノ発現、是レナリ、

第四、細身ノ状態トシテ、即チ六種ノ属性ヲ有スル最上精神ナリ、即チ婆藪天ナリ、六種ノ属性ハ無欲、不死、無憂、無餓、正見、正意ニシテ皆罪業ヲ杜絶スルモノナリ、

第五、内面的支配者ノ状態トシテ、即チ吠陀經ニ「精神ノ中ニ住スルモノハ内部ニ於テ精神ヲ支配ス」ト云ヘルガ如ク、一切ノ精神ヲ活動セシムルモノナリ、

崇拜者ハ第一ノ状態ヨリ崇拜シ、次第ニ順序ヲ逐ヒテ崇拜シ、崇拜スルニ從ヒテ解脱ノ障碍タル罪業ヲ殄滅スルヲ得ルナリ、崇拜ハ五種ノ儀式ヨリ成ル、第一ハ参詣、第二ハ準備、第三ハ敬礼、第四ハ誦讀、第五ハ祈念、是レナリ、参詣ハ神社ヘ至ル路上ヲ掃除スルガ如キヲ謂ヒ、準備ハ香花等ヲ裝置スルヲ謂ヒ、敬礼ハ即チ毗濕奴ニ對スルノ敬礼其レ自身ヲ謂ヒ、誦讀ハ毗濕奴ヲ讃美セル經文ヲ背誦（ママ）スルヲ謂ヒ、祈念ハ毗濕奴ヲ冥想シテ之レニ禱ルヲ謂フ、若シ此ノ如キ崇拜ノ結果トシテ得ラレタル智識ノ為メ、可見的ノ世界ガ断滅シ了ハラバ無限ノ慈悲心ヲ有セル最上精神ハ

主宰ヲ祈念シ、主宰ノ中ニ吸入セラレタルモノニ其無限ノ境界ヲ附与シ、己レト平等ナリトノ意識ヲ有セシム、若シ一タビ其無限ノ境界ニ達スルヲ得バ、復タ輪廻ノ境界ニ歸スル「ナキナリ、此レニ由リテ之レヲ観レバ、藍摩奴闍派ハ解脱ハ唯〻他力本願ニヨリテノミ得ラルベキモノトセリ、

藍摩奴闍派ガ毗濕奴ヲ以テ最上精神トシ、畢竟一元無差別ノ根本主義ニ歸スル所差〻吠檀達派ニ似タリ、其教義ハ毗濕奴冨蘭那 Vishṇu-Purâṇas ニ基ヅクト雖モ、亦実ニ吠檀達派ノ經文ヨリ得来タルモノ多シト云フ、然レモ遂ニ吠檀達派ト混同スベキニアラズ、其最上精神ヲ婆羅吸曼ト云ハズシテ毗濕奴ト云ヘルガ如キハ單ニ名称ノ異同ニ過ギズト云フベキモ、他ノ點ニ於テ顕著ナル差違ナキニアラズ、商羯阿闍梨 Śankarâchârya ハ獨リ絶對タル婆羅吸曼ヲ以テ唯一ノ実在トシ、客観主観ノ差別世界ノ如キハ、一切迷妄ニ属ストセリ、是故ニ彼レハ藍摩奴闍派ノ主張スル如キ精神、非精神及ビ主宰ノ区分ヲ許容セザルベシ、然レモ藍摩奴闍派オモヘラク、若シ果シテ彼レガ所謂迷妄ノ証明アラズ〔バ〕、是レ不可ナルニアラザルモ、智識ニヨリテ排除スベキ此ノ如キノ迷妄即チ〔無明ガ〕無始ヨリ成立セル実在アルニアラザルナリ、茲ニ吠檀達派ニ於ケルガ如ク自覚主義ガ無明（即チ迷妄）ノ客観及ビ主観トシテ写象サル、トセンカ、若シ写象サル、キハ無明ハ実在ノ智識ニヨリテ消滅スルガ故ニ如何ニシテ無明ハ尚ホ継續スルヲ得ルカ、若シ写象サレザルキハ、吾人ハ如何ニシテ主観モ客観モ有セザル無明ニ就イテ意識ヲ有スルヲ得ルカ、啻ニ此ノ如ク迷妄ノ証明ニ就イテ困難アル而已ナラズ吠陁經モ亦非真理ノ中ニ包容セラル、宇宙迷妄ノ存在ニ関スル証左ヲ附与セザルナリト、藍摩奴闍派ニアリテモ無明ヲ云ハザルニアラザレモ、吠檀達派ノ無明トハ其意義ノ範圍ニ甚シキ差異アル「ヲ忘ルベカラザルナリ、藍摩奴闍派ノ信者ハ髪根ヨリ、二個ノ白直線ヲ畫イテ両眉ニ至リ、尚ホ鼻根ニ一横線ヲ畫イテ二個ノ線端ヲ連絡ス、之レヲ其記號トス、又彼等ハ食事ノ為メニ種々愼重ナル儀式ヲ有スルニ於テ著名ナリ、

藍摩婆Pâmâvats〔Râmâvats〕ト称スル宗徒モ亦藍摩奴闍派ノ信者ト大差ナシト云フ、

第十五、富樓那般若派

富樓那般若派ハ阿難陀底利達Ânanda-tîrthaト云ヘル人ノ創唱スル所ニ係ル、〔彼レハ紀元千二百年頃生レ、阿難的濕伐兒〔アナンテシュヴール〕ノ寺院ニ於テ教育ヲ受ケタリト云フ、彼レニ又〕彼レ種々ナル稱号アリ、或ハ摩杜婆Madhva若クハ摩杜婆阿闍梨Madhvâchâryaト云ヒ、或ハ摩第耶曼地羅Madhya-mandiraト云ヒ、或ハ富樓那般若Pûrṇa-prajnaト云フ富樓那ハ満、般若ハ智、故ニ富樓那般若ハ満智ト云フ「ナリ、蓋シ創唱者ヲ讃美シテ此名ヲ附スルモノナリ、此派ノ信者ヲ婆羅賀磨珊波羅陀因Brahmasampra-dâyinsト云フ、彼等ハ最モ南方印度ニ多ク、本ト婆伊濕那婆派ナレモ、差〻濕婆崇拜ニ近似スル所アリ、

富樓那般若派ハ自存ト依存ノ二諦ヲ立ツ、即チ二元論ニシテ商羯羅阿闍梨ノ一元論ニ反抗セリ、商羯羅ハ世界ヲ以テ迷妄トシ、個体精神ヲ以テ婆羅吸曼ト同一トシ、畢竟最上精神ノ一元ニ歸セリ、然ルニ富樓那般若ハ最上精神タル毗濕奴ト個体精神及ビ物質世界ハ根本的ノ差別ヲ有スルモノトシテ二元ニ歸セリ、彼ノ考察ニ據レバ、毗濕奴ハ最上精神ナリ、自存的実在ナリ、一切ノ不完全ヲ離レテ無限ノ優勝ナル性質ヲ有セルモノナリ、毗濕奴ハ服従ノ對象ニシテ個体精神ト異ナリ、人ニ服従サルヽノハ其服従スル人ト同ジカラズ、例ヘバ君主ト臣民ノ関係ニ於ケルガ如シ、若シ快樂ヲ求メ、苦痛ヲ避ク〔ル〕「ヲ人生ノ目的トシ、敢テ主宰ノ地位ヲ得ント欲スルモノアラバ、彼レハ主宰ノ恩寵ヲ蒙ムル「能ハズ、否寧ロアラユル悩害ヲ受クルニ至ラン、然ルニ自ラ劣等ノ位置ヲ取リ、主宰ノ優勝ナル「ヲ認識セバ主宰ノ恩寵ヲ受クルヲ得、是故ニ吾人ハ〔最上〕主宰タル毗濕奴ニ服従セザルベカラズ、然ルニ服従ハ三法ヨリ

成ル、第一ハ烙印法、第二ハ命名法、第三ハ崇拜法、是レナリ、烙印法ハ那羅延天 Nârâyaṇa ノ兵器ヲ我身ニ烙印シテ以テ其紀念トナシ、收局ノ目的タル解脱ニ到達スルノ方便トスルヿナリ、那羅延天ハ婆羅賀磨 Brahma ノ異名ナレモ、亦毗濕奴ト同一視セラルヽヿアリ、是故ニ富樓那般若ハ全ク那羅延天ヲ以テ毗濕奴ト同一視シテ此ノ如キ烙印法ヲ設ケタリ、命名法ハ子孫ニ「ケシャヴ」Kesava（訖利濕那ノ異名）ノ如キ名称ヲ附シ、以テ最上主宰ノ記念トナスヿナリ、崇拜法ニ十種アリ、其中音声ヲ以テスルモノト、身体ヲ以テスルモノト、通感ヲ以テスルモノトノ別アリ、音声ヲ以テスルモノハ眞実、有益、親切、脩学ノ四法トス、身体ヲ以テスルモノハ施済、防禦、保護ノ三法トス、通感ヲ以テスルモノハ、慈悲、景慕、信仰ノ三法トナス、合シテ十種ナリ、今之レヲ表ニスレバ左ノ如シ、

- 服従
  - (一) 烙印法
  - (二) 命名法
  - (三) 崇拜法
    - 音声
      - (一) 眞実
      - (二) 有益
      - (三) 親切
      - (四) 修学
    - 身体
      - (五) 施済
      - (六) 防禦
      - (七) 保護
    - 通感
      - (八) 慈悲
      - (九) 景慕
      - (十) 信仰

個体精神及ビ物質世界ハ依存ナレモ、非実在ニアラズ、是故ニ畢竟二元ナリ、然レモ富樓那般若ノ世界観モ時アリテハ一元論ニ歸スルノ傾向アリ、彼オモヘラク、眞実ヲ云ヘバ非二元ナリ、毗濕奴ハ一切他ノモノヨリ優等ナルガ故ニ眞実ヲ云ヘバ之レト同等ナルモノナク、之レヨリ優等ナルモノナキナリト、其商羯羅阿闍梨ト抗論スルニ拘ハラズ、頗ル吠檀達派ニ近キ観念アルヲ見ル、富樓那般若ハ又如何ニ個体精神ト物質世界ノ関係ヲ解釈セシカ、之レヲ詳悉スル能ハザルハ遺憾ナリ、之レヲ要スルニ、彼レハ毗濕奴ヲ以テ最大ノ実在トシ、前ニ挙ゲタル服従ノ三法ヲ実行スレバ其寵愛ヲ得テ、輪廻ヲ解脱シ、人生收局ノ目的ニ到達スルヲ得ベシトセリ、此学派ノ人南方印度ニ多ク、或者ハ單ニ哲学者トシテ寺院ニ住セリ、前額ニ二箇ノ直線ヲ畫クヿ、藍摩奴闍ト同ジ、但シ其色ハ白色ニアラズシテ赤色ナリ、其間ニ又一箇ノ黒線ヲ加フ、是レ毗濕奴ノ偶像ノ前ニアル焼香ノ炭ヲ以テ畫クモノナリ、

第十六、晒婆派

晒婆派ハ濕婆ヲ崇拜スル一派ニシテ所謂摩醯首羅論師、是レナリ、此学派ノ起原ハ詳ナラズ、ラッセン氏ハ濕婆崇拜ノ痕迹ハ歴山王遠征後マデ追考スルヲ得ト云ヘリ、(Ind. Alterth. Bd. II. S. 1114) 然レモ其証スル所未ダ薄弱ヲ免レズ、今之レヲ考フルニ、提婆ノ外道小乘涅槃論ニ二十種ノ外道ヲ列挙シ、摩醯首羅論師ヲ以テ第十五トセリ、提婆ハ龍樹ノ弟子ナリ、龍樹ノ時代ニ就イテハ異説多シト雖モ、姑ク紀元後百年頃生レテ六十歳マデ存命セリトセバ、提婆モ紀元後二世紀ノ末ノ人ナラン、果シテ然ラバ濕婆派ハ晩クモ紀元後二世紀ニハ已ニ之レアリタリ、殊ニ龍樹ガ濕婆派ノ世界観ヲ養取シテ大乘教ヲ作為セシトノ説ヲシテ眞ナラシメバ、其起原ノ頗ル舊キヿ推シ知ルベキナリ、然レモ濕婆派モ一旦ハ甚シク衰退セシナランガ、八世紀ニ至リテ商羯羅阿闍梨ガ之レヲ復興スルニ及ンデ再ビ、隆盛トナ

リ引續イテ今日ニ至〔レ〕リ、〔晒婆派ニ少クモ〕十數派〔四種〕ノ分派ヲ成セ〔ア〕リ、其中重要ナルモノハ

第一、老陁羅派 Raudras……此派ハ三支〔叉〕戟 Trisûla ヲ前額ニ畫ク、三支〔叉〕ハ造化、破壞、及ビ再生ノ記號ナリ、

第二、烏揭羅派 Ugras……此派ハ陁摩樓 Ḍamaru ヲ携フ、陁摩樓ハ神聖ナル大鼓ノ名ナリ、

第三、薄多派 Bhaktas……此派ハ隣伽 Linga ヲ前額ニ着ク、隣伽ハ即チ濕婆ノ記號ナリ、

第四、剡伽摩派 Jangamas……此派ハ隣伽ヲ頭上ニ着ク、

第五、波輸鉢多派 Paśupatas…此派ハ那拘利奢 Nakulîśa ノ創唱スル所ニシテ隣伽ノ記號ヲ身体ノ他ノ部分ニ畫ク、

第六、瑜伽派 Yoga……六哲学派ノ一タル瑜伽派モ亦晒婆派中ノ一分派ナリ、(第十章ヲ參着セヨ)

第七、波羅底耶〔毗〕闍那派 Pratyabhijna…此派ハ紀元十一世紀ノ始メニ生存セル阿毗那婆毱多 Abhinava Gupta ノ一派ニシテ之レヲ認識派ト称ス、

第九〔八〕、羅斯濕伐羅派 Raseśvaras…即チ水銀派ナリ、」

第十〔九〕、檀愼派 Daṇḍins……此派ハ杖ヲ携ヘ居ル乞食僧ノ一派ナリ、

第十一、十名檀愼派 Daś-nâmî-daṇḍins…此派ハ十種ノ分派ヨリ成リ、商羯羅ノ四第子ノ十第子ノ名ヲ有スルモノナリ、

第十二〔一〕、波羅摩亙婆派 Paramahansas…此派ハ單ニ婆羅賀磨ヲ冥想スル「ニ従事スルモノナリ、濕婆派ニシテ何故獨リ婆羅賀磨ヲ冥想スルカ、未ダ考ヘ得ズ、

第十三〔二〕、阿瞿隣派 Aghorins……此派ハ恐ルベキ厭フベキ苦行ニヨリテ濕婆ノ恩寵ヲ得ントスルモノナリ、又之レヲ阿瞿羅波陳派 Aghorapathins ト称ス、

第十四〔三〕、優突婆鉢護派 Ûrdhva-bâhus…此派ハ片腕若クハ両腕ヲ頭上ニ差上ゲ、幾年モ之レヲ継續スルモノナリ、

第十五〔四〕、阿伽婆目緊派 Âkâśa-mukhins…此派ハ常ニ首ヲ後方ニ向ケテ天ヲ睨ムモノナリ、

右ニ列挙セル十五〔四〕種ノ分派ノ中哲学上趣味アルモノハ僅ニ第七第八第九ノ三派ニ過ギズ、今左ニ晒婆派ノ哲学ノ要領ヲ叙述セン、

晒婆派ハ三諦四法ヲ立ツ、三諦ハ第一ニ主宰〔pati〕、第二ニ精神〔paśu〕、第三ニ世界〔paśa〕是レナリ、精神ハ依存ニシテ世界ハ無智ナリ、故ニ主宰ヲ以テ第一トス、此三諦ハ之レヲ譬フレバ猶ホ主人ト家畜ト鉄鎖ノゴトシ、家畜ハ鉄鎖ヲ離ルヽニアラザレバ主人ニ歸スル能ハズ、此ノ如ク精神ガ主宰ニ歸シテ之レト合一センニハ世界ヲ離レザルヲ得ザルナリ、四法ハ第一ニ学問 jnâna 第二ニ法務 kriyâ 第三ニ靜慮 yoga 第四ニ德行 charyâ 是レナリ、法務ハ人生ノ目的ニ達スル〔ニ〕必要ナレモ、学問ナクシテハ成遂ゲラルベキニアラズ、故ニ学問ヲ以テ第一トシ、之レニ次グニ法務ヲ以テス、然レモ又目的ニ達スルニハ冥想〔靜慮〕ヲ要スルガ故ニ冥想〔靜慮〕之レニ次グ、冥想〔靜慮〕モ実行ノ之レニ伴フナケレバ何等ノ價値モナキガ故ニ德行之レニ次グ、此ノ如クニシテ晒婆派ハ三諦四法ヲ立テ、此レニ由リテ哲学組織ヲ成ス、晒婆派ハ〔第一諦ノ主宰ハ〕濕婆 Siva ヲ崇拜ス〔ナリ〕、濕婆ハ即チ主宰ナリ、即チ最上精神ナリ、已ニ解脱シタル個体精神ハ濕婆ノ神的性質ヲ分受スルヲ得レモ、是等ハ自存的ノモノニアラズシテ、皆最上精神タル主宰ニ依存ス、主宰結果ノ性質ハ世〔界〕ニ属スルヲ見ル、然ルニ世界ハ有智実ハ（「有智実ハ」の四字は

削除すべきか—編者) 其各部分ノ井然秩序ヲ成ス處、全ク主宰ニ類似ス、是等ノ結果アルニヨリテ世界ハ有智実在ノ造成スル所ナルヲ知ル、主宰ハ蓋シ萬有作因ナリ、然レモ亦一切ノ衆生ノ作業ニ関セズト云フニアラズ、主宰ハ能ク各個ノ應報、方便、因縁等ヲ知ルモノナリ、主宰ノ全智ナルヿハ其一切ノ物ト同一〔体〕ナルヲ以テ証スベク、又無智ノ実在ガ物ヲ生ズルヿ能ハザルヿモ一証ナリ、ムリゲンドラ Mrigendra 云ハズヤ、「彼レハ一切萬物ノ造成者ナルガ故ニ全智ナリ、何ントナレバ、獨リ物及ビ物ノ方便、部分并ニ目的ヲ知ルモノ、ミ能ク物ヲ造成スト云フヿハ確定セル主義ナレバナリ」ト、然レモ反對者或ハ云ハン、吾人ハ姑ク主宰ガ自存的ノ造物者ナルヿヲ許容セン、然レモ彼レハ身体ヲ有セズ、然ルニ經驗ニ據ルニ、瓶等ノ如キ一切ノ結果ハ陶工等ノ如キ身体ヲ有セル生類ノ作為セル所ナリ、然レモ若シ主宰ガ身体ヲ有スルモノナラバ、吾人ト同ジク苦難ヲ免レズ、此ノ如クナルトキハ全智全能ト謂フヿ能ハザルナリ」ト、然レモ吾人ハ之レヲ否定セザルヲ得ズ、何ントナレバ、無形ノ精神モ身体ト合一シテ行動ヲ生ズレバナリ、若シ又假リニ主宰ガ身体ヲ有ストスルモ、反對者ガ云ヘル如キ欠點ト必ズシモ起ルモノニアラズ、主宰ハ決シテ物質ノ繫縛ト関係ヲ有スベキモノニアラザルガ故ニ、其身体ハ物質的ノモノナルヲ得ズ、唯〻純粹ナル勢用ノ身体ナルベキノミ、古典ニ據レハ主宰ノ身体ハ五種ノ讃誦ヨリ成ル、其文ニ云ク、

主宰ハ伊舎那 Iśâna ヲ以テ其頭トシ、怛富樓沙 Tatpurusha ヲ以テ其口トナシ、阿瞿羅 Aghora ヲ以テ其心臓トナシ、提婆彌婆 Vâmadeva ヲ以テ陰部トナシ、薩第烏闍他 Sadyojâta ヲ以テ其足トナス、

此ノ如キ身体ハ彼〔レ〕自身ノ意志ニヨリテ造成セラレタルモノニテ、吾人ノ身体ト同ジカラズ、即チ主宰五種ノ運用ノ原因ナリ、何ヲカ五種ノ運用トナス、第一ニ慈悲、第二ニ壅蔽、第三ニ殄滅、第四ニ保存、第五ニ発生、是レナリ、

第一諦ノ主宰ハ已ニ説明セリ、此レヨリ第二諦ノ精神ヲ説明セン、精神ハ常住不變ニシテ遍一切處ナリ、吾人ハ斫婆迦派ノ如ク、精神ヲ以テ〔身体ト〕同一ナリトスルヲ得ズ、何ントナレバ、他人ノ見タルモノハ記憶スル能ハズト云ヘル諺ノ如ク、此見解ニ據ルキハ、記憶ノ何タルカヲ解釋スルヲ得ザレバナリ、然レモ又尼夜耶派ノ如ク、精神ハ知覚ニヨリテ認識スベキモノトスルヲ得ズ、何ントナレバ、若シ精神ガ認識セラルベキモノナラバ、又第二ノ認識者ナカルベカラズ、若シ是レモ認識セラルベキモノナラバ、猶ホ他ノ認識者ナカルベカラズ、此ノ如クニシテ無限退歩 ad infinitum regressus ヲ成スベケレバナリ、然レモ又闍伊那派ノ如ク有限トシ、佛教派ノ如ク無常トスルヲ得ズ、何ントナレバ、是レ空間若クハ時間ニヨリテ制限スベキモノニアラザレバナリ、然レモ又吠檀達派ノ如ク、精神ヲ唯一ナリトスルヲ得ズ、何ントナレバ、各種ノ應報ノ配当ハ數多ノ個性精神アルヲ証スレバナリ、然レモ又數論派ノ如ク、何等ノ作用ヲ有セザルモノトスルヲ得ズ、何ントナレバ、經典ニ云ヘルガ如ク若シ一切ノ繫縛ヲ脱シテ濕婆ト合一スルキハ常住無限ノ靈〔理〕觀及ビ作用ヲ有スベケレバナリ、晒婆派ニアリテハ精神ニ三種ノ別アリトス、第一ニ毗闍那捺伽羅 Vijnânâ-kalâ 第二ニ波羅々耶伽羅 Pralayâkalâ 第三ニ薩伽羅 Sakalâ 是レナリ、第一の毗闍那捺伽羅ハ單ニ蔽遮 mala ノ規定ヲ受クルモノニテ、其業障ハ靜慮及ビ智識ニヨリテ抹撥セラル、第二ノ波羅々耶伽羅ハ蔽遮ト作法 Karman ノ規定ヲ受クルモノニテ、世界ノ破壞スルキニハ之レト共ニ破壞セラル、第三ノ薩伽羅ハ蔽遮、作法及ビ迷妄 mâyâ ノ規定ヲ受クルモノニテ、最劣等ノ地位ヲ占ム、第一ノ毗闍那捺伽羅ハ又分チテ〔已淨的・未淨的ノ二種トナス、前者ヲ〕已淨的〔沙摩波多伽樓沙〕Samâptakalushâ ト〔云ヒ、後者ヲ〕未淨的〔阿沙摩波多伽樓婆〕asamapta-kalushâ ノ二種トナス〔ト云フ、〕是レ染垢ノ滅盡セルト未タ然ラザルトニヨリテ区別セルモノナリ、其已淨的ノモノハ人類中最優等ニ属シ、特異ノ権威ヲ有スベキモノニテ、濕婆ノ寵遇ニヨリ識自在 Vidyeśvaras 即チ知識

ノ主ノ地位ニ昇進スルヲ得、識自在ニ八種アリ、左ノ如シ、

識自在
- (一) 阿難多 Ananta
- (二) 須器尸摩 Sukshma
- (三) 濕薄達摩 Śivottama
- (四) 猗伽涅多羅 Ekanetra
- (五) 猗伽樓陁羅 Ekarudra
- (六) 怛利牟栗底伽 Trimûrttika
- (七) 室利犍達 Śrîkanṭha
- (八) 室犍愼 Śikaṇḍin

第二ノ波羅々耶伽羅モ亦分チテ二種トナス、〔一ハ〕蔽遮ト作法ノ成熟セルモノ、〔之レヲ薄婆伽婆陁婆耶〕pakvakâśadvaya〔ト云フ〕是レナリ、前者ハ解脱スルヲ得レド、後者ハ細身ヲ有シ、諸趣ニ流轉シテ成劫ヨリ壞劫ニ至ル、換言スレバ解脱スルマデハ生々死々ヲ免レザルナリ、第三ノ薩伽羅モ亦分チテ二種トナス、其神位ニ昇進スルモノ、之レヲ薄婆伽樓婆 Pakvakalusha ト云ヒ、其身体ヲ有シテ自己作法ノ應報ヲ受クルモノ、之レヲ阿薄婆伽樓婆 apakvakalusha ト云フ、前者ハ其成熟セルノ故ヲ以テ濕婆之レヲ曼多羅 Mantras ノ百十八主ノ地位ニ昇進セシム、曼多羅ノ百十八主ハ左ノ如シ、

曼多羅ノ百十八主
- 曼陁鄰 Mandalins……八
- 拘盧陁 Krodha ……八
- 毗黎娑 Vîreśa……一
- 室利犍達 Śrîkaṇṭha ……一
- 盧陁羅 Rudras ……百

後者ハ各自ノ作法ノ結果ニヨリ各種ノ身体ニ繫縛サレ、過去ノ應報ヲ享受シ、無限ニ流轉スルヲ免ザルモノナリ、是故ニ晒婆派ノ精神ヲ分類スレバ、總ベテ六種トナル、

精神
- 毗闍那捺伽羅 Vijnânâkalâ
  - 沙摩波多伽樓娑 samâplakalusha
  - 阿沙摩波多伽樓娑 asamâplakalusha
- 波羅々耶伽羅 Pralayâkalâ
  - 薄婆伽娑陁婆耶 pakvakâśadvaya
  - 阿薄婆伽娑陁婆耶 apakvakâśadvaya
- 薩伽羅 Sakalâ
  - 薄婆伽樓娑 pakvakalusha
  - 阿薄婆伽樓娑 apakvakalusha

第三諦ノ世界ハ即チ物質ナリ、物質ニ四種ノ別アリ、第一ニ蔽遮 mala 第二ニ作法 karman 第三ニ迷妄 mâyâ 第四ニ強服 rodha 是レナリ、蔽遮ハ精神ノ理觀及ビ作用ヲ壅蔽シ、且ツ其自発的感化力ニヨリテ精神ヲ抑制スルモノニテ譬ヘバ猶ホ糠ノ米ニ於ケルガゴトク、又鏽ノ銅ニ於ケルガゴトシ、作法ハ應報ヲ希求スルモノヽ為ス所ニシテ法ト非法ノ性質ヲ有シ、無限ノ連鎖ヲ成セリ、迷妄ハ壞劫ノ時ニ神靈ノ勢用トシテ将成的ニ含有セラレ、成劫ノ時ニ発

現シ来タルモノナリ、強服ハ精神ヲ繫縛シテ之レヲ暗黒ニスル一種ノ勢用ナリ、強服ヲ以テ物質トスルハ比喩的ニ之レヲナスニ過ギズ、是レ強服ハ其実濕婆ノ勢用ニシテ自ラ物質ノ性質ヲ受クルヨリモ寧ロ物質ヲ管理シテ精神ヲ蒙蔽スルモノナリ、

第十七、波輪鉢多派

濕婆崇拜派ノ一支派ヲ波輪鉢多 Pásupata ト云フ、此派ハ濕婆ヲ波輪鉢底 Pásu-pati（波輪ハ牛若クハ獣若クハ個体精神ノ義、鉢底ハ主宰ノ義）トシテ崇拜スルガ故ニ波輪鉢多ト称ス、波輪鉢底崇拜派ノ義ナリ、波輪鉢多派ハ那拘利奢 Nakulíśea ノ創設スル所ニ係ル、ト云フ、然レモ那拘利奢ハ如何ナル人物ニシテ、如何ナル時代ニ生存セシカ、總ベテ詳ナラズ、阿難陀耆釐 Ânanda-giri ハ此派ヲ迦波利迦 Kâpâlika ト称セリ、モニエル、ウヤルリャムス氏ニ據レバ印度教ハ通例五大派ヲ云フ、第一ニ晒婆派 Śaivas 第二ニ婆伊濕那婆派 Vaishṇavas 第三ニ娑屈多派 Śaktas 第四ニ伽涅娑派 Gâṇapatyas 第四ニ修羅派 Sauras 即チ太陽崇拜派、然レモ時アリテ又波輪鉢多派ヲ以テ第六トナスアリ、(Monier Williams Brāhmanism and Hinduism, p. 59.) 果シテ然ラバ波輪鉢多派ハ本ト晒婆派ノ一支派ニ過ギザルモ、亦印度教中最モ〔頗ル〕重大ナル一学派ト認識セラルヽヲ知ルベキナリ、支那訳ノ佛書中ニハ或ハ之レヲ塗灰外道ト云ヒ、或ハ之レヲ牛主外道ト云ヒ、或ハ又之レヲ獸主外道ト云ク、玄應ノ音義巻二十三（三十四右）ニ云ク、「波輪鉢多、此塗灰外道名也、遍身塗レ灰、髪則有二剃不剃一、衣纔蔽レ形、但非二赤色一、為レ異爾、事二魔醯首羅天一也、」ト、仝二十五（八左）ニモ亦同様ノ文アリ、但シ波輪鉢多ヲ播輪鉢多ニ作ルノ差アルノミ、然ルニ倶舎光記巻九（四十四左）ニハ波輪鉢多ヲ以テ牛主外道トナス、其文ニ云ク、「播輪鉢多外道、此云二牛主一、主謂天主、摩醯首羅天乗レ牛而行、故名二牛主一此外道学二彼天法一、從レ彼為レ

名、故名二牛主一、此外道受下持頂上持二一髪子一、身体塗上レ灰一ト、然ルニ又唯識述記巻一本（七十八右）ニ之レヲ獣主外道ト称セリ、云ク「有二外道一、名二播輪〔鉢〕多一、翻為二獣主一、如下一瞿声別、目二於牛一、通名二於獣一但言中牛主上、未レ善二方言一、非二但與レ牛而為レ主、故如二伏犧等一」ト、此レニ由リテ之レヲ観レバ、獣主外道ト云フハ其義全ク牛主外道ニ同ジ、恰モ瞿go ハ原語ニテ牛ヲ意味スレモ、亦廣ク通ジテ獣類ヲ意味スルガ如ク、波輪ハ狭ク云ヘバ牛、廣ク云ヘバ獣ノ義ナルガ故ニ獣主外道ノ名アリ、是故ニ〔獣主外道ハ特ニ此派ヲ〕輕侮シテ附與セル名称ト見做スベキニアラザルナリ、然レモ波輪鉢底ハ個体精神ノ主宰、若クハ一切衆生ノ主宰ト訳スルヲ妥当ナリトス、之レヲ牛主若クハ獣主ト云フハ甚ダ適切ナラズト謂フベキナリ、〔波輪鉢多派ノ起原ハ未ダ詳ナラズ、然レモ其名ハ瑜伽論九十九（十一右）及ビ倶舎論九（二十一右）ニ見ユ、輪伽論ハ弥勒菩薩ノ作ト称スト雖モ、是レ固ヨリ無着ノ依托ニ出デ、倶舎論ハ其弟世親ノ造ル所ニ係ル、此二氏ガ何ヅレモ波輪鉢多派ノ事ヲ云ヘルヲ見レバ波輪鉢多派ハ其頃已ニ一派ヲ成セル疑ナシ、無着ハ紀元後四百八十五年ヨリ五百六十年マデ生存シ、世親ハ無着ヨリ少キ二十歳ナリキ、果シテ然ラバ波輪鉢多派ハ晩クモ紀元後六世紀ニ発達セルヲ知ルナリ、〕波輪鉢多〔此〕派ハ主トシテ南方印度ニ蔓延セリ、

波輪鉢多派ハ八種ノ五事及ビ三種ノ法務ヲ以テ人生最上ノ目的即チ解脱ニ到達スルノ方便トナス、八種ノ五事ハ第一、收獲、即チ実行ノ結果ハ分チテ五種トス、智識、懺悔、身体ノ永存、持久、及ビ清淨、是レナリ、第二、不淨、即チ精神ニ関スル不幸ナル状態ニモ亦五種アリ、錯誤セル概念、不法、愛着、興味ヲ有スル丁、及ビ墮落、是レナリ、第三、便宜ノ五種ハ居處ヲ用フル丁、念誦、考察、断エズ魯陁〔達〕羅天（即チ濕婆）ヲ追想スル丁、及ビ領會、是レナリ、第四、〔方處〕即チ修学者ガ教義ノ網要ヲ学ビ得タルノ後、智識ヲ増進シ、嚴戒ヲ厲行スベキ方處ニ五種アリ、心靈上ノ教師、洞穴、特殊ノ場處、焼熱地、及ビ魯陁〔達〕羅、是レナリ、第五、堅忍即チ欲望セル目的ニ到達スル

マデ八種ノ五事中幾多ヲ忍耐スルヿニ五種アリ、区別、無区別、低誦、承諾、及ビ奉事、是レナリ、第六、洗滌、ニ五種アリ、即チ錯誤セル概念及ビ其他四種ノ不淨ヲ除去スルヿ、是レナリ、第七、入学ニ五種アリ、材料、適当ナル時期、礼式、偶像及ビ心靈上ノ教導者、是レナリ、第八、勢力ニ又五種アリ、心靈上ノ教導者ニ奉事スルヿ、知力ノ明晰ナルヿ、苦楽ニ折〔打〕勝ツヿ、法即チ功德及ビ愼重、是レナリ、是レヲ八種ノ五事トナス、今之レヲ表ニスレバ左ノ如シ、

- (一) 收獲
  - (一) 智識
  - (二) 懺悔
  - (三) 身体ノ永存
  - (四) 持久
  - (五) 清淨
- (二) 不淨
  - (一) 錯誤セル概念
  - (二) 不法
  - (三) 愛着
  - (四) 興味ヲ有スルヿ
  - (五) 墮落
- (三) 便宜
  - (一) 居處ヲ有スルヿ
  - (二) 念誦
  - (三) 考察
  - (四) 断エズ魯陁〔達〕羅天ヲ追想スルヿ
  - (五) 領會

八種ノ五事

- (四) 方處
  - (一) 心靈上ノ教師
  - (二) 洞穴
  - (三) 特殊ノ場處
  - (四) 燒熱地
  - (五) 魯陁×〔達〕羅
- (五) 堅忍
  - (一) 区別
  - (二) 無区別
  - (三) 低誦
  - (四) 承諾
  - (五) 奉事
- (六) 洗滌〔五種ノ不淨ヲ除去スル〕
  - (一) 材料
  - (二) 適当ナル時期
  - (三) 礼式
  - (四) 偶像
  - (五) 心靈上ノ教導者
- (七) 入学
  - (一) 心靈上ノ教導者ニテ奉事スル〕
  - (二) 知力ノ明晰ナル〕
  - (三) 苦楽ニ打勝ツ〕
  - (四) 法
  - (五) 愼重
- (八) 努力

三種ノ法務ハ五種ノ不淨ヲ除去スルガ為メ、毎日禮法ニ從ヒテ食物ヲ得ル方法ニテ、第一ニ乞食、第二ニ報謝ニヨリテ生活スルヿ、第三ニ偶然ノ供給ニヨリテ生活スルヿ、是レナリ、

波輪鉢派ニアリテハ苦痛ノ絶滅ニ人格的ト非人格的トノ二種アリトス、非人格的絶滅ハ一切ノ苦痛ヲ絶對的ニ除去スルヲ謂ヒ人格的絶滅ハ主トシテ視力ト活動力ヲ除去スルヲ謂フ、視力ハ一箇ノ勢力ニ過ギザレモ、其對象ノ駁雜ナルノ故ヲ以テ視力ノ外尚ホ聽力、識力、辨別力、全知力ヲモ含有スルモノトスベシ、然レモ若シ分別シテ之レヲ云ヘバ、視力ハ一切ノ見ルベク、觸ルベク、感ズベキ對象ニ於ケル認識ナリ、此ノ如キ認識ハ其對象ガ知覚スベカラザルト、遮断セラルヽト遼遠ナルトニ拘ハラザルナリ、次ギニ聽力ハ一切有節的音声ニ関スル主義ノ認識ナリ、次ギニ識力ハ一切ノ思想ニ関スル主義ノ認識ナリ、次ギニ辨別力ハ本文及ビ其意義ニ違ハザル經典ノ全組織ノ認識ナリ、終リニ全知力ハ一切ノ事項ニ関スル眞実ナル主義ノ認識ナリ、合シテ之レヲ視力ト云フ、活動力モ亦一箇ノ勢力ニ過ギザレモ、亦三種ノ勢力ヨリ成ル、第一ニ思想ノ迅速力、第二ニ隨意ニ如何ナル形体ヲモ有スルノ力、第三ニ遍遊力、是レナリ、思想ノ迅速力ハ比類ナキ速度ヲ発動スベキ能力ナリ、次ギニ如〔何〕ナル形体ヲモ有スベキ力ハ無限ノ有機体中ニ於テ其類似セル機関モ、類似セザル機関モ作法ノ結果ニ拘ハラズ、其好ム所ニ隨ヒ、之レヲ應用スベキ能力ナリ、次ギニ遍遊力ハ假令ヒ之レヲ應用セザルトモ亦此ノ如キ優等ノ機関ヲ有スベキ能力ナリ、合シテ之レヲ活動力ト云フ、

苦痛ノ絶滅
- 人格的
  - 視力
    - (一) 視力
    - (二) 聽力
    - (三) 識力
    - (四) 辨別力
    - (五) 全知力
  - 活動力
    - (一) 思想ノ迅速力
    - (二) 隨意ニ如何ナル形体ヲ有スルノ力
    - (三) 遍遊力
- 非人格的〔一切ノ苦痛ヲ絶對的ニ除去スル〕

或ル終局ノモノニ從屬スル一切ノ結果即チ依存ハ分チテ之レヲ三種トナス、第一ニ有情性、第二ニ無情物、第三ニ有情物、是レナリ、有情性ハ有情物ノ属性ニシテ認識的ト非認識的トノ区別アリ、認識的有情性ハ細別シテ辨別力ヲ有スルモノト然ラザルモノトノ二種トナス、非認識的有情性ハ有情的精神ノ對象ニヨリテ規定セラルヽト、規定セラレザルトノ別アリ、無情物ハ其レ自身ハ無意識ニシテ有意識ノモノニ從屬シ、分チテ結果ト原因トノ二種トナス、結果ト称スル無情物ニ十種アリ、即チ地水火風空ノ五大ト之レニ属スル声觸色味香ノ五性ヲ謂フ、原因ト称スル無情物ニ十三種アリ、即チ五知根、五作根及ビ三種ノ内面的機関ヲ謂フ、三種ノ内面機的関ハ各〻其官能ヲ有ス、第一ハ確定ノ機関、第二ハ我ト非我トヲ迷妄的ニ同一視スルノ機関、第三ハ决定ノ機関、是等機関ノ名称ハ未ダ考ヘ得ズ、有情物ハ輪廻ヲ免レザルモノニテ、是レニ肉慾ヲ有スルモノト肉慾ヲ有セザルモノトノ二種アリ、肉慾ヲ有スルモノハ即チ有機体ト機関トヲ有スル精神ナリ、肉慾ヲ有セザルモノハ即チ有機体ト機関トヲ有セザル精神ナリ、是等一切ノ結

果即チ依存ハ或ル終局ノモノニ従属セザルナシ、或ル終局ノモノトハ何ゾヤ、是レ即チ濕婆ナリ、全能力、視力、及ビ活動力ヲ有スル主宰ナリ、萬物ヲ己レニ還没セシメ、又萬物ヲ進化セシムル最大原因ナリ是故ニ波輪鉢多派ノ世界観ヲ表ニスレバ左ノ如シ、

- 一切
  - 自存（即チ濕婆）
    - (一) 有情性
      - 認識的
        - 辨別力ヲ有スルモノ
      - 非認識的
        - 規定セラルヽモノ
        - 規定セラレザルモノ
  - 依存（即チ世界）
    - (二) 無情物
      - 結果
        - 物質
          - (一) 地
          - (二) 水
          - (三) 火
          - (四) 風
          - (五) 空
        - 性質
          - (一) 声
          - (二) 觸
          - (三) 色
          - (四) 味
          - (五) 香
      - 五知根
        - (一) 耳
        - (二) 皮
        - (三) 眼

- 原因
  - 五作根
    - (一) 舌（言）
    - (二) 手（執）
    - (三) 足（歩）
    - (四) 男女（戯）
    - (五) （大遺（除））
  - (四) 舌
  - (五) 鼻
- 三種ノ内面的機関
  - (一) 確定ノ機関
  - (二) 我ト非我トヲ迷妄的ニ同一視スルノ機関
  - (三) 決定ノ機関
- (三) 有情物
  - 肉慾ヲ有スルモノ
  - 肉慾ヲ有セザルモノ

解脱ハ智〔知〕力ニヨリテ我精神ヲシテ最上精神タル濕婆ト合一セシムルニアリ、然ルニ此ノ如キ合一ニ二種アリ、一ハ作用ト相伴フモノ、一ハ作用ト相伴ハザルモノ、其作用ト相伴フモノハ、低誦、考察等ニヨリテ達シ得ラルベク、其作用ト相伴ハザルモノハ意識等ト称スルナリ、

第十八、波利伐羅勺迦派

世親ノ倶舎論巻九（二十一右）ニ波輪鉢多派ト共ニ般利伐羅勺迦派 Parivrâjika ヲ挙グ、此派ハ何人ノ創唱スル所ナルヤヲ

詳ニセズト雖モ、亦婆伊濕那婆派ノ一支派ニシテ晩クモ紀元後六世紀ニ発達セルモノナルヿハ世親之レヲ論ズルニヨリテ知ルベキナリ、波利伐羅勺迦ハ支那訳ノ佛書ニ般利伐羅勺迦、波利咀羅拘迦、簸利婆羅闍迦若クハ般利伐羅多迦ニ作ル、皆波利伐羅勺迦ノ訛傳ナリ、波利伐羅勺迦派ハ蓋シ家族ヲ捨テ故郷ヲ離レ、遍ク歴遊スル乞食僧ノ一派ナリ、故ニ古来訳シテ遍出ト云ヒ、普行ト云ヒ、或ハ出家外道ト云ヘリ、頭髪ハ盡ク剃リテ頂上ニ少髪ヲ残シ、衣ハ纔ニ身体ヲ蔽ヒ、染ムルニ赤土ノ色ヲ以テセリ、倶舎光記巻九(四十五右)ニ云ク「般利伐羅多迦外道、此云二遍出一、即顕二出家義一、是出家外道、受下持執二三杖一、行擬中安衣服瓶鉢等物上、并剪二鬚髪一、無義苦行、」ト、此レニ由リテ之レヲ観レバ、此派ノ宗徒ハ三杖ヲ携ヘテ歩行シ、交叉シテ之レヲ地上ニ立テ、總ベテ衣服瓶鉢等ノ如キ隨身ノ必要物ヲ安置スルノ用ニ供スルナリ、(三杖ノ事倶舎光記巻六、十八左ニ見ユ)又唯識述記本(七十八右)ニ云ク「有二外道一、名二波利咀羅拘迦一譌為二遍出一、遍能出二離諸俗世間一、即出家外道之類」ト、又玄應ノ音義巻二十四(八左)ニ云ク「般利伐羅勺迦、亦言二簸利婆羅闍迦、此云二普行一、事二那羅延天一、頂留二少髪一、餘盡剃去、内衣在レ体、纔蔽二形醜一、其衣染以二赤土之色一」ト、是等ノ傳説ノ外吾人ガ波利伐羅勺迦派ニ就イテ知リ得ベキ源泉ハ未ダ之レヲ発見スルヲ得ザルナリ、アイテル氏ハ此派ヲ以テ晒婆派ニ属スルモノトセリ、(Hand-book of Chinese Buddhism, 2nd ed. p. 116) 然レ𪜈那羅延天ハ濕婆ニアラズシテ毗濕奴ナルガ故ニ是レ全クアイテル氏ノ誤解ニ出ヅルモノト謂フベキナリ、

第十九、波羅底耶毗闍那派

波羅底耶毗闍那派 Pratyabhijnâ ハ晒婆派ノ一支派ナリ、訳シテ之レヲ〔復〕認識派ト称ス、是レ此派ハ濕婆ヲ〔復〕認識スルヲ以テ究竟解脱トスレバナリ、波羅底毗闍那派ハ何人ノ創設スル所ナルヲ知ラズ、然レ𪜈、摩陁婆 Mâdhava

ノ哲学纂論 Sarva-darsana-samgraha 中ニ阿毗那婆毎多 Abhinava Gupta ノ注ヲ引イテ此派ノ学説ヲ叙述スルニヨリテ之レヲ考フルニ、本ト波羅底耶毗闍那經 Pratyabhijnâsûtra ト称スル經文アリテ後、阿毗那婆毎多ナルモノ之レガ注解ヲナセシモノト見ユ、果シテ然ラバ阿毗那婆毎多ハ此派ノ鼻祖ニハアラザルベケレモ、亦商羯羅ノ吠檀多派ニ於ケルガ如ク、一個ノ有力ナル祖述者ナルヿ疑ナシ、ビューレル氏ニ據レバ阿毗那婆毎多ハ十一世紀ノ初ニ生存セル人ナリ、波羅底耶毗闍那派ノ教義ノ要領ハ左ノ如シ、

第一、總論……濕婆ハ無間ノ自己炫耀、福祉、及ビ自存ノ実在ナリ、毗濕奴、毗隣支（波羅賀麼ノ異名）及ビ其他ノ諸神ハ濕婆ノ神聖ナル性質ノ幾分カヲ得テ始メテ神タルヲ得、彼等ハ假相世界ヲ超過スト雖モ、尚ホ無限ノ迷妄ニ拘惹スルヿヲ免レズ、是故ニ吾人ハ濕婆ヲ以テ最上ノ実在トナシ、之レヲ復認シ、之レガ奴隷トナリ、以テ自存若クハ絶對ノ如キ其神聖ナル性質ヲ享受スルハ即チ人生終局ノ目途ナリ、濕婆ハ其奴隷ノ欲望スル所ニ従ヒ、如何ナルモノモ惠与スルモノナリ、然ラバ濕婆ハ如何ナル處ニ於テ之レヲ認識スルカ、是レ他處ニ於テスルニアラズシテ、我レニ於テスルナリ、己ニ之レヲ復認スレバ我レハ即チ魔醯首羅ナリ、一切ノ福祉ハ此ノ如キ復認ニヨリテ得ラル、若シ自ラ此ノ如キ復認ヲ成シ得タル以上ハ他人ヲシテ同一ノ境界ニ進マシムルノ希望アリ、如何ナル人モ神聖ナル性質ノ如何ヲ了解セバ最優等ノ應報ヲ受ケ、〔是レマデ〕輪廻ヲ免レザル精神モ究竟ノ目途ニ到達スルヲ得ベキナリ、

第二、精神ノ迷妄……精神ハ自己炫耀ノ性質ヲ有シ、神ト同一体タルガ故ニ幾多ノ勤労ニヨリテ之レヲ復認スルガ如キ必要アルヲ見ズ、然レモ精神ハ幾分カ宇宙迷妄ノ感化ヲ免レザルモノナルガ故ニ認識力及ビ活動力ノ擴充ニヨリテ充分ノ復認ヲ成サヾルヲ得ズ、是故ニ自然ノ人ニアリテハ自己ハ神的光耀ノ一部分ニ過ギザレモ、見識ヲ有スル人ニアリテハ其全部ヲ享有スルヲ得、此自己ハ認識力ト活動力ヲ有スルガ故ニ神タラザルベカラズ、其認識力ト活動力ヲ

有スル丈其レ丈自己ハ主宰ナリ、

第三、濕婆ト世界ノ関係……濕婆ハ其光耀アル智識ニヨリテ一切周圍ノ物象ヲ照映ス、是ニ於テカ始メテ青黄等ノ如キ光明アリ、之レ皆物象ガ光明ニ付与セル彩色ノ駁雜ナルヨリ起ル、其実主宰ハ一切空間時間及ビ形体ノ際限ヲ超過シ、數量モ差別モ有セズ、彼〔レ〕ハ純粋ナル智識ナリ、自己炫耀ナリ、発現者ナリ、若シ其異名ヲ挙グレハ或ハ之レヲ智識的元精ト云ヒ、或ハ無間ノ認認〔識〕ト云ヒ、或ハ自発ノ直覚ト云ヒ、或ハ福祉ノ集合セル実在ト云ヒ、或ハ最上ノ権勢ト云フ、之レヲ要スルニ、濕婆ハ最上実在ニシテ一切ノ物象ハ其智識ノ光耀ヲ受ケテ始メテ差別ノ世界ヲ成スモノナリ、

第四、濕婆ノ絶對意志……世界ハ主宰ノ絶對意志ニヨリテ成ル、若シ主宰ガ瓶若クハ布若クハ物ノ〔其他〕物象ノ形体ヲ取リテ世界トナサント欲セバ其活動力ニヨリテ世界ニ造化セラル、世界ノ発達ハ動機ナキ無情物若クハ非神聖的智識ノ然ラシムル所ニアラズ、陶工ガ瓶ヲ作為スルニハ必ズ原料ト器具ヲ要スレモ、濕婆ノ世界ヲ造化スルハ猶ホ奇術家ガ單ニ意志力ニヨリテ木若クハ瓶ヲ発生スルガ如ク、絶對意志ノ結成〔果〕ニ出ヅルナリ、

第五、解脱……過境的自己ハ即チ濕婆ナレモ、唯〻其迷妄ヲ免レザルガ故ニ、無限ニ輪廻シテ作法ノ結果ヲ受ク、若シ学術ニヨリテ其神聖ノ性質ヲ認識シ、純粋ナル智識タルヲ得バ、是ニ於テカ、始メテ人生終局ノ目途タル解脱ニ到達シタルナリ、已ニ解脱セルモノハ恰モ繫縛ヲ脱却セル濕婆ノ如ク、一切ノ認識セラルベキモノヲ自己ト同一ナリトシテ認識スレモ、他ノ未ダ解脱セザルモノハ無限ノ分殊ヲ含有セリ、

第二十、羅斯濕伐羅派

摩陁婆ノ哲学纂論ニ羅斯濕伐羅派 Rasesvara ヲ以テ第九トセリ、羅斯濕伐羅派ハ晒婆派ニ属スル一分派ニシテ、又水銀派ト称ス、此派ハ何人ガ何ノ時代ニ創設セシ所ナルカ、吾人ハ何等ノ歴史的事実ヲ有セズ、此派ハ水銀ニヨリテ生命ヲ永遠ニ保持シ、命終ヲ待タズ、現在ニ於テ解脱セントスルモノナリ、水銀ハ吾人ヲシテ輪廻ノ彼岸ニ達セシムルモノトスルガ故ニ、之レヲ彼岸〔擾〕与 pârada ト云ヘリ、甚シキニ至リテハ水銀ト最上自己(即チ濕婆)トヲ同一視シ、〔之レヲ水銀自在天 Rasesvara ト称シ〕水銀ヲ侮辱スルモノハ神靈ヲ冒瀆スルモノニシテ永遠ニ罪障アリトセリ、其水銀ニヨリテ延命ヲ企図スルガ如キハ支那ノ道家ガ漢魏ノ頃丹ヲ煉リテ延命ノ薬ヲ求メタルニ類セリ、〔抱朴子對俗篇ニ云ク「凡草木燒レ之、即燼而丹砂、燒レ之成二水銀一、積變又還成二丹砂一、其去二凡草木一亦遠矣、故能使レ人長生一、神僊独見二此理一矣」ト、其水銀ヲ以テ延命ノ効アルモノトスル〕、以テ証スベキナリ〕西洋ニモ十三世紀ノ頃ニ当リ、亞剌比亞ノゲルベル〔Gerber〕氏ノ煉金術 Alchemie ヲ傳ヘ、獨逸ノアルベルト、ボルステット Albert von Bollstädt (千百九十三年乃至千二百八十年) 英國ノローヂャ、ベーコン Roger Bacon (千二百十四年乃至千二百九十四年) 西班牙ノライムンドス、ルヽス Raimundus Lullus (千二百三十五年乃至千三百十五年) 等皆煉金術ヲ以テ名アリ、是等煉金家ハ劣等ノ金属ニ或ル少量ノ物質ヲ加ヘテ「智者ノ石」Stein der Weisen ヲ得ンヿヲ企図シ、若シ「智者ノ石」ヲ得バ以テ延命ノ薬トナスベシト思惟セリ、〔Herman Ropp, Entwickelung der Chemie in der nueren Zeit. S. 16–18.〕或ハ〔練金術ハ〕埃及土ノ〈ルメス、トリスメギストス Hermes Trismegistos (神名) ニ淵源スト云フト雖モ、其言固ヨリ取ルニ足ラズ〔ザルナリ〕〕羅斯濕伐羅派ハ或ハ〔世界ノ〕錬金家ノ鼻祖ニアラザルカ、

支那ノ道家及ビ亞剌比亞ノ煉金家ハ何ヅレモ印度ヨリ煉金術ヲ傳ヘタルニアラザルカ、吾人ハ未ダ之レヲ確定スル能ハズ、姑ク疑ヲ存センノミ、羅斯濕伐羅派ガ「解脱ハ智識ニヨリ、智識ハ研究ニヨリテ成ル、而シテ研究ハ唯〻健康ノ身体ニ於テノミ出来得ベシ」ト云ヒテ健康ナラザレバ智識ハ得ベカラズトスルハ羅甸ノ諺ニ「健康ノ心意ハ健康ノ身体ニアリ」Mens sans in corpore sans ト云ヘルト同一意ナルハ亦奇異ナル暗合ト謂フベキナリ、

〔第廿一、〕婆伽婆多派

婆伽婆〔多〕派 Bhagavata ハ婆伊濕那婆派ノ一支派ニシテ薄伽梵歌 Bhagavadgita 及ビ薄伽梵富蘭那 Bhavagadpuranas ヲ以テ經文トスルモノナリ、薄伽梵歌モ薄伽梵富蘭那モ共ニ摩訶婆羅多 Mahâbharata（大戰爭ノ義）ト称スル有名ナル詩篇中ノ一節ニシテ其薄伽梵〔Bhagavat〕ト云フハ最高者若クハ有德者ノ義ニテ即チ訖利濕那ヲ意味スルナリ、其事タル、佛者ガ釈迦及ビ其他ノ佛陀ニ尊称ヲ付与シテ薄伽梵ト云フト同ジ、玄應ノ音義巻三（一右）ニ云フ「婆伽婆、舊云二有大功德一、至聖之名、正言二薄伽梵一、薄伽此譯云レ德、梵此言一成就義一、衆德成満、名二薄伽梵一、又此一名、總攝二衆德一、餘即不レ爾、故諸經首皆置二此名一、」ト、又慧琳ノ音義巻一（六左）ニ云ク「如来尊号、有二無量名一、略而言レ之、有二其六種一、薄伽梵、是總稱也、義曰、衆德之美、尊敬之極也、古譯為二世尊一、世出世間、感尊重敬、」ト、薄伽梵ノ義ハ佛教ニ於ケルト異ナラザルナリ、此派ハ婆伊濕那婆ニ属スレモ、純粹ナル婆伊濕那婆派ニアラズシテ僧侶、瑜伽、吠檀多等ノ各哲学派ヲ調和セントスル一種ノ折衷派ナリ、其起原ハ得テ詳ニシ難シ〔、〕ト雖モ、薄伽梵歌ノ著作ハ〔古来毘耶婆 Vyâsa（即チ廣博仙人）ト称スト雖モ、信ズルニ足ラズ、毘那婆ハ本ト編輯人ノ義ニ過ギザレバナリ、然レモ其人ハ〕蓋シ婆伊濕那婆派ニ属セル一個ノ婆羅門ニシテ〔ナリシナラン、其時代ニ就イテ異説多ク〕或ハ紀元後

第一世紀ニ生存セリトシ、或ハ第二世紀、或ハ第三世紀或ハ尚ホ之レヨリ後ニ生存セリトス、然レモ何ヅレニシテモ〔今ヨリ〕其千数百年前ノ人タルヤ疑ナキナリ、其教義ハ全ク各学派ノ折衷ニシテ獨得ノ創見ナキガ故ニ特ニ叙述スルノ價値アルモノニアラザルナリ、

第十五章　印度哲學ノ総評

吾人ハ優波尼沙土以来印度ニ起レル各哲学派ノ起原主義及ビ沿革等ヲ研究セリ、今其重要ナル学派ノ數ヲ擧グレバ二十有八、若シ建立淨論、不建立無淨論、流出論等ノ如ク、畧述セルモノ、及ビ各学派ノ分派ヲ併セテ之レヲ算フルトキハ百數十派ニ下ダラス、其観念ノ駁雜ナル、思想ノ豊富ナル、之レヲ希臘ニ比スルモ、決シテ遜色アリトセズ、服水論師ノターレス氏ニ似タル、火論師ノヘラクライトス氏ニ似タル、風仙論師ノアナキシメ子ス及ビヂオゲ子ス二氏ニ似タル、已ニ第十四章ニ之レヲ叙述セリ、或ハ云フ、佛教ノ始メテ支那ニ入リタルハ紀元後六十五年ナルガ故ニ、支那訳ノ佛書ニ是等各種ノ哲学派ノ事ヲ載スルモ必ズ〔シモ〕希臘ノ如ク紀元前數百年ニ起レリトスルヲ得ズ、寧ロ佛書ノ支那ニ入リタル頃ノ学派ト見做スヿ妥当ナラント、然レモ支那ニ傳ヘタル佛書ハ盡ゝク其傳ヘタル頃ニ成リシモノニアラズ、支那ニ傳ヘタル以前ヨリ印度ニ行ハレタルモノ、多キニ居ルナリ、殊ニ「アイタレヤ、アーラニヤカ、ウパニシヤド」(二、四、二及〔ビ〕三)ニ云ク「彼レ(即チ毗濕婆)オモヘラク、余ハ世界ヲ発生スベキカト、乃チ世界ヲ発生セリ、天水ト光明ト合死物ト地水ト是レナリ」ト、服水論師派ノ根據、実ニ此ニアリ、又摩兎ノ法典ノ初メニモ太初唯ゝ水アルヿヲ云ヘリ、然ラバ服水論師派ノ説豈ニ後世ニ出ヅルモノナルベケンヤ、「チヤドヂヤ、ウパ

ニシヤド」(六、二、三及ビ四) ニ云ク「其物オモヘラク、余ハ數多ナルベキカ、余ハ生成〔長〕スベキカ、乃チ火ヲ発生セリ、其火オモヘラク、余ハ數多ナルベキカ、余ハ生長スベキカ、乃チ水ヲ発生セリ、云云、水オモヘラク、余ハ數多ナルベキカ、余ハ生長スベキカ、乃チ地(即チ食物)ヲ発生セリ」ト、火論師派ノ根據実ニ此ニアリ、「タイツチリヤカ、ウパニシヤド」(二、一) ニ云ク「其自己(即チ婆羅吸曼)ヨリ虚空ヲ生ジ、虚空ヨリ風ヲ生ジ、風ヨリ火ヲ生ジ、火ヨリ水ヲ生ジ、水ヨリ地ヲ生ジ、地ヨリ木ヲ生ジ」云云ト風仙論師派ノ根據蓋シ〔亦〕此ニアルナラン、此レニ由リテ之レヲ観レバ、服水論師派、火論師派、風仙論師派等ノ起リタルハ決シテ後世ノ事ト断定スルヲ得ズ、若シ希臘ノ哲学ニ先ツ「ナカリシナラバ大低彼レト同時代ナリシナラン、希臘ニロイキップス及ビデモクトス二氏ノ原子論アレバ印度ニモ亦勝論派ノ原子論アリ、此両者ガ多少ノ差違點ヲ有スルニ拘ハラズ、如何ニ相類似スル「ノ甚シキカハ已ニ第九章第十七節ノ末ニ詳論セリ、希臘ニ犬儒学派及ビ「ストア」学派ノ如ク禁慾主義ヲ取ルモノアレバ印度ニハ闍伊那派及ビ瑜伽派ノ如ク、一層厳酷ナル禁慾主義ヲ取ルモノ少シトセズ、希臘ハ〔ニ〕「チレ子」学派及ビエピクルス学派ノ如ク快楽主義ヲ抱クモノアレバ、印度ニハ先ニ婆訶斯波底派 Bârhaspatya 後ニ斫婆迦派 Châryâka アリテ恰モ之レト對立セリ、若シ希臘ニソクラテス氏ノ如ク專ラ倫理ノ一事ヲ研鑽セシモノアルヲ云ハヾ、印度ニハ數多ノ戒律ヲ設ケテ一代ヲ矯正シタル釈迦アル「ヲ忘ルベカラズ、若シ又プラトン氏ノ如ク其〔甚〕深微妙ノ観念〔論〕ヲ主張スルモノアルヲ云ハヾ、印度ニ婆達羅耶耶 Bâdarâyana ノ如ク、ヘーゲルノ世界観ニモ優レル絶大ノ唯心論ヲ主張スルモノアルヲ思ヘ、希臘ニアリストテレス氏出デ、彼國ノ哲学ヲ大成スルアレバ、印度ニハ商羯羅阿闍梨 Sankarâckârya ノ印度固有ノ哲学ヲ大成シ、絶大ノ感化ヲ及ボシ、遂ニ佛教ノ痕迹ヲシテ印度ノ中央ニ絶タシムルニ至ルアリ、若シ又アリストテレス氏ガ論理ヲ発明セシ「ヲ以テ希臘ニ特異ナリトセバ、印度ニハ氏ニ先チテ已

ニ喬答摩 Gautama ナルモノ、論理ヲ発見シ、數論派、勝論派、佛教派等皆沿襲シテ之レヲ應用セリ、否彼レアリストテレス氏ハ果シテ論理ノ観念ヲ印度ニ傳フルニアラザルカ、歴史大王ノ遠征ハ幾分カ印度ノ思想ヲ希臘ニ引入スルノ端緒トナリタルニ、氏ハ恰モ其時代ノ人ニシテ歴山大王ノ師ナリキ、氏ヨリ先キハ正式論理ニ類スルモノ、絶エテ希臘ニ之レナク、氏ニ至リテ始メテ之レアリ、是故ニ歴史的事実ノ確証トスベキモノナキモ、氏ガ多少論理ノ観念ヲ印度ヨリ得タルニアラザルカノ疑惑ハ容易ニ氷釈スル〔能ハザルナリ、（第八章第四節ヲ參見セヨ）之レヲ要スルニ、印度ノ哲学ハ希臘ノ哲学ト對立シテ毫モ遜色アルモノニアラズ、エルドマン チェレル ユーベルウェヒ諸氏ノ如キ獨逸ノ哲学史家ハ獨リ希臘ノ哲学ノミヲ以テ純粋ナル智識的探究ヲ主トセルモノトシテ特ニ之レヲ尊重シ、東洋ノ哲学ハ一般ニ宗教的観念ヲ混同セルモノトシテ痛ク之レヲ輕侮スルノ傾向アレモ、是レ彼等ガ印度哲学ニ於ケル智識ノ甚ダ薄弱ナルニ因由セズンバアラズ、印度哲学ガ如何ホド宗教的観念ヲ混同トスルモ、其哲学上ノ價値ハ之レガ為メニ消〔湮〕滅スルモノニアラズ、然ルニ吾人ガ尼夜耶派、僧佉派、衛世師派、斫婆迦派等ノ哲学組織ノ如何ヲ考察セバ何等ノ宗教的観念ヲモ混同スルモノニアラズ〔シテ〕、皆以テ純粋ナル智識的探究ト見做スヲ得ベキモノナリ〔ルヲ知ル〕若シ又之レト同時ニ希臘ノ哲学モ亦必ズシモ〔多少ノ〕宗教的観念ヲ混同セズト云フヲ得ザルヲ思ハヾ、彼等ノ断定ガ確実ナル根柢ヲ有セザルヲ知〔見〕ルニ足ラン、次ギニ吾人ノ注意ヲ惹クハ、希臘ノ哲学ニ比較スベキモノナキ、印度ノ哲学派、即チ印度ニ特異ナル哲学派、是レナリ、即チ地論師派、口力論師派、時論師派、方論師派、無因論師派、声顕論師派、声生論師派等ノ如キハ獨リ印度ノミニ起リテ他國ニ於テ之レニ類似スルモノアルヲ聞カズ、此ノ如ク印度ニ特異ナル哲学派アル以上ハ益〻印度哲学ノ研究スベキ充分ノ價値アルヲ証スルニ足ルナリ、

印度ノ哲学派、數多アリト雖モ、若シ盡〻ク其主義ヲ研究シ来タラバ、其間ニ幾多ノ共通ノ點アルヲ発見セン、他語

ヲ以テ之レヲ云ヘバ、各哲学派ガ其組織ヲ異ニスルニ拘ハラズ、自ラ同様ノ性質ヲ帯ブル所アルヲ認識セン、此點ニ於テハ希臘哲学ハ頗ル印度哲学ニ異ナリト謂ハザルヲ得ズ、希臘哲学ニアリテハ各種ノ世界観ハ何等ノ著シキ共通ノ點ヲモ有セズ、彼等ガ相互ニ思想上ノ感化ヲナセルヿハ固ヨリ疑ヲ容ルベキニアラザルモ、一箇ノ組織ヲ成セルモノハ必ズシモ他ト同一ノ性質ヲ有スルヲ要セズ、即チ名自ハ各自ノ特色アルヲ失ハズ、然ルニ印度哲学ニアリテハ幾多ノ點ハ如何ナル組織ニモ共通ニシテ実ニ千變一律ノ観ナキニアラザルナリ、今左ニ共通ノ點ヲ列挙センニ、

第一、吠陀經ノ尊信……佛教派ヲ除クト外一切ノ印度哲学派ハ吠陀經ノ証典タルヿヲ否定セズ、寧ロ吠陀經ヲ引イテ自家ノ学説ヲ強ウセントセリ、実ニ吠陀經ノ印度哲学派ニ於ケルハ、猶ホ和漢ノ儒者ガ四書五經ヲ尚ビ、耶蘇教徒ガ新舊約全書ヲ重ンジ、回々教徒ガ格闌ヲ信ズルガゴトク、証典トシテ絶大ノ権勢ヲ有セリ、就中數論派、勝論派等ノ如キハ曾ニ吠陀經ト親密ノ関係ヲ有セザル而已ナラズ、反リテ吠陀經以外ニ旗幟ヲ揚グルモノニ似タリ、然レモ尚ホ未ダ全ク吠陀經ヲ棄擲スルニ至ラザルナリ、殊ニ迦比羅ハ吠陀ニ無定、無極、不淨、退失、優劣ノ五失アルヿヲ云ヘモ、量ノ中尚ホ聖言 âpta-vachana ヲ存セリ、

第二、厭世観……印度ノ哲学派ハ如何ナル哲学派モ皆此世界ハ生滅常ナク、苦痛已ムヿナク、悲哀困苦ノ境界ナルガ故ニ、一層優劣ニシテ永遠ニ至樂ナル境界ヲ求メントセリ、此點ニ於テハ佛教派モ何等ノ差違點ヲ有セズ、獨リ快樂主義ヲ主張スル斫婆迦派ノミ、差〻例外ニ属スルガ如ク見ユ、然レモ唯〻表面上ノ事ニ過ギズ、支那ニテ揚子ノ快樂主義ガ老子ノ厭世観ヨリ来タレルガ如ク、斫婆迦派ノ快樂主義モ、本ト此世界ヲ以テ禍祉ヲ以テ充タサレタル極樂界トスルニアラズ、此世界ハ実ニ悲哀困苦ノ世界ニシテ未来ノ快樂モ亦必ズシモ預期シ難シトスルガ故ニ出来得ベキ丈快樂ヲ得ントスルナリ、印度〔当時〕ノ古詩ニ云ハズヤ、「汝有二生命一時、起居何快活、死氣所二襲来一、何人遂得レ

脱、倏忽歸二幽冥一、一任焼二骸骨一、欲レ還不レ能レ還、影寒北邙月」（摩陀婆ノ哲学纂論・研婆迦派ノ下ニ出ヅ）ト、是故ニ斫婆迦派ハ快樂主義ヲ取ル、故ニ其快樂主義ハ厭世観ニ本ヅクモノナルヲ知ルナリ、

第三、因果應報……如何ナル哲学派モ、佛教派ノ如ク、因果應報ノ理法ヲ認識シ、善ナル行為ハ善ナル果報ヲ来タシ、悪ナル行為ハ悪ナル果報ヲ来タストセリ、因果應報ノ理法ハ実ニ印度各哲学派ノ倫理ノ由リテ立ツ所ト謂フベキナリ、

第四、精神不滅……精神ノ如何ナルカニ就イテハ異説アリ、（第十四章第二項晒婆派ノ哲学ヲ參看セヨ）然レモ精神ノ常住不滅ナル「ニ就イテハ各哲学派皆一致セルニ似タリ、獨リ斫婆迦派ノミハ例外ナリ、佛教派ハ基督教徒ノ信ズル如キ、精神不滅ハ是定セザレモ、亦甚ダ精神不滅ニ類スルノ観念アリ、（此事ハ尚ホ佛教ノ下ニ詳論ス）蓋シ因果應報ト精神不滅ハ連結シテ分離スベカラザルモノナリ、何ントナレバ、因果應報ハ精神不滅ヲ是定スルニアラザレバ合理的ニ説明スルヲ得ザレバナリ、

第五、物質不滅……吾人ノ研究ノ結果ニ據レバ、一切ノ印度哲学派ハ物質不滅ヲ假定スルモノト云フヲ得ベシ、吠檀多派ノ如キハ成就壞空ノ説アリト雖モ、物質ヲ以テ虚無ヨリ生ズトスルニアラズ、世界ノ生ズルヤ梵天ヨリ流出シ、世界ノ滅スルヤ、梵天ニ還没ス、其生ズルハ眞ニ生ズルニアラズシテ梵天自ラ展開セルナリ、其滅スルハ眞ニ滅スルニアラズシテ梵天ノ中ニ理没スルナリ、故ニ基督教徒ノ信ズル如キ造化ハ印度哲学派ノ未ダ曾テ夢想セザル所ナリ、

第六、輪廻……印度ノ哲学派ハ皆輪廻轉生ノ観念ヲ有シ、一切生物ノ精神ハ命終ノ後、各種ノ物体ニ移住ストセリ、即チ現在ニ於テ善ナルモノハ未来ニ於テ善生ヲ受ケ、現在ニ於テ悪ナルモノハ未来ニ於テ悪生ヲ受ケ、此ノ如ク無限ニ流轉シテ自己ノナセル作法ノ結果ヲ享有セザルヲ得ストセリ、輪廻ノ観念ハ多少学派ニ從ヒテ同ジカラザルモノアリト雖モ、全ク輪廻ノ観念ヲ有セザルモノハ斫婆迦派ヲ除クノ外ハ一モ之レアル「ナシト謂フヲ得ベシ、

第七、解脱……世界ノ眞相ヲ悟了シテ世間上ノ迷妄ヲ打破シ去リ、此レニヨリテ輪廻轉生ヲ脱却スル、之レヲ解脱トス、印度ノ哲学派ハ皆解脱ヲ以テ人生究竟ノ目途トナス、然レモ其名称ハ必ズシモ一定セズ、吠檀多派ニテハ之レヲ木又 Moksha ト云ヒ、佛教派ニテハ之レヲ毗木又 Vimoksha ト云ヒ、尼夜耶派ニテハ之レヲ阿波婆迦 Apavarga ト云ヒ、其他或ハ之レヲ目底 Mukti ト云ヒ、或ハ之レヲ伽婆利耶謨 Kaivalyam ト云ヒ、或ハ又之レヲ尼濕黎耶娑謨 Nihśreysam ト云フ、皆同ジク世間上ノ繫縛ヲ離脱スルヲ謂フナリ、彼等ハ皆認〔智〕識ヲ以テ解脱ニ到達スルノ方便トセリ、

第八、涅槃……印度ニアリテハ如何ナル哲学派モ解脱ト共ニ涅槃ヲ云ハザルナシ、提婆ノ外道小乘涅槃論ニ外道二十派ヲ擧ゲテ其涅槃ノ説ノ如何ニ相違セルカヲ論ゼリ、涅槃ノ観念ハ学派ニ従ヒテ異ナリト雖モ、其之レヲ以テ円満幸福 Summum bonum トスルニ至リテハ一ナリ、涅槃ハ輪廻ノ境界ヲ解脱シテ彼岸ニ到達シ得タル状態ナリ、故ニ解脱スレバ即チ直チニ涅槃ナリ、出世間上ノ境界ナリ、此現象世界ヲ去リテ彼実在世界ニ入ル、是レ印度哲学派ノ均シク期スル所ナリ、

右ニ列挙セル八種ノ共通點ノ外尚ホ著明ナル幾多ノ傾向ナキニアラズ、今其一二ヲ挙ゲンニ、印度哲学ハ概シテ之レヲ云ヘバ、心靈的ノ傾向ヲ有シテ西洋哲学ノ有スルガ如キ客観上ノ事実ヲ探究スルノ精神ヲ欠ク、換言スレバ、此世界ニ関スル一ハ認識ノ對象トシテ重大ノ價値ヲ付与セズ、偏ニ渺漠タル出世間上ノ理想界ニ彷徨スルモノナリ、又斫婆迦派ノ如キ一二〔二三〕ノ学派ヲ除クノ外ハ大低禁慾主義ノ一方ニ偏セリ、克己修德ヲ講究スルモノハ自然此ノ如キ傾向ヲ有スベシト雖モ、印度ノ禁慾主義ニ至リテハ其惨裂峻酷ナル、普通人情ノ外ニ出デタリ、之レヲ要スルニ、印度哲学ハ其組織ノ種類、僅少ナラザルニ拘ハラズ、幾多ノ共通點ヲ有スルガ為メニ、多少單調ノ感ナキニアラズ、

然レモ其奇異ナル想像ニ富ムガ如キ、其煩瑣ナル辨論ニ長ズルガ如キ、其幽微ヲ析キ、深奥ヲ穿ツノ伎倆アルガ如キ、其絶大ノ理想界ヲ構造シテ心ヲ塵俗以外ニ遊バシムルガ如キ、深ク吾人ノ興味ヲ惹起シ、為メニ單調ノ感ニ打勝チテ尚ホ餘リアリ、印度哲学ハ之レヲ研究スルモノヽ勞動ニ報ユルニ富豊ナル結果ヲ以テスルニ足ルモノナリ、印度哲学ノ特質ハ支那及ビ西洋ノ哲学ト同ジカラズ、支那哲学ハ主トシテ吾人ハ如何様ニ行動スベキカヲ尋念セリ、西洋哲学ハ主トシテ吾人及ビ吾人ノ住スル此世界ハ何物ナルヤヲ探究セリ、然ルニ印度哲学ハ主トシテ吾人ハ如何ニシテ此世界ノ苦痛ヲ脱却シ得ベキカヲ考察セリ、印度哲学中專ラ智識的擦究ヲナスモノモアリト雖モ、最大部分ハ宗教ノ性質ヲ帶ビ居ル「ハ如何ナル人モ之レヲ否定スルヲ得ズ、其宗教ノ性質ヲ帶ビ居ルモノハ智識ヲ以テ單ニ宗教上ノ目的ニ到達スルノ方便トセリ、哲学ハ智識ニヨリテ起リ、宗教ハ意志ニヨリテ起ル、換言スレバ、哲学ハ事物ニ就イテ純粹ナル智識的探究ヲナスモノニテ宗教ハ我精神ヲ未来ニ救ハントノ欲望ヲ充タスモノナリ、此両者ハ実際ニ於テ嚴重ニ区別シ、絶エテ相互ニ交錯セザラシムル「幾ンド出来得ベキニアラザルモ、亦其区域ヲ異ニシテ併行スル「出来得ベカラザルニアラズ、西洋実ニ此ノ如キ的例ヲ示セリ、然ルニ印度哲学ニ就イテ之レヲ見ルニ、婆羅門教ノ如キ佛教ノ如キ闇伊那派ノ如キ皆哲学ト宗教ヲ合一シテ之レヲ有セリ、獨リ西洋ノ哲学〔ノミ〕ヲ以テ一切哲学ノ標準トナスモノハ印度哲学ノ多クハ宗教ノ性質ヲ帶ビ居ルヲ非難シテ之レガ為メニ其哲学上ノ價値ヲ減殺スルモノヽ如クニ論ズレモ、是レ実ニ深ク考察セザルヨリ起ル謬見ナリ、印度哲学中宗教ノ性質ヲ帶ビ居ルモノアルハ甚ダ興味ス〔ア〕ル「ナリ、哲学ハ智識的探究ヲ主トスレモ、其智識的探究ハ何故ニ之レヲナスカ、是レ他ナシ、吾人自ラノ精神ノ何物タルカヲ疑ヒ、吾人ノ住スル此世界ノ何物タルカヲ疑ヒ、又如何ナル実在アリテ一切現象ノ根底タルカヲ疑ヒ、百般ノ疑ハ吾人ヲ驅リテ智識的探究ヲナサシム、若シ吾人ガ何等ノ満足スベキ解釈ヲ得ザルトキハ、吾人ハ如何ンシテ安心立

命ノ地ヲ得ベキカ、嚴粛ナル思想家ニシテ一タビ百般ノ疑ヲ起シタル以上ハ眞理ヲ究明シ、迷妄ヲ打破シ、安心立命ノ地ヲ得ルニアラザレバ已ムザルベシ、故ニ如何ナル哲学モ單ニ智識的探究ニ終ハルベキモノニアラズ、智識的探究ハ畢竟安心立命ヲ以テ終局ノ目的トナスモノナリ、故ニ安心立命ノ地ヲ求ムルヲ以テ宗教ノ性質トセバ婆羅門教及ビ佛教ノ如ク哲学ト宗教トヲ兼有シ、哲学ヲ以テ基礎トシ、其主義ヲ宗教上ニ應用スル亦甚ダ便利ナラズヤ、然レモ安心立命ノ地ヲ求ムルハ固ヨリ哲学ノ範囲内ノ事トスルヲ得ベク、必ズシモ宗教上ノ性質トシテ哲学ヨリ分離スルノ理由ナルニアラズ、獨リ神怪不思議及ビ各種ノ儀式等ハ宗教上ノ性質トシテ哲学ヨリ分離スベキモノナリ、

〔付〕 夏目漱石の聴講ノート断片

一 はじめに

漱石は次の俳句を詠んでいる。

永き日や韋陀を講ずる博士あり　　（井の哲の事）

この俳句は明治二十九年一月二十八日に松山から正岡子規に宛てて送った句稿の中にある一句である。[1]「井の哲」は、当時、井上哲次郎のことを学生達がそう呼んでいた。韋陀（ヴェーダ Veda）はインドにおいて最も神聖とされる文献であり、井上哲次郎がヴェーダの講義をしたと言えば、考えられるのはインド哲学史の一貫として講義したということであろう。ヴェーダそのものについて専門の学術的研究があの時代に可能であったとは考えられないからで

ある。われわれは井上哲次郎の「印度哲学史」の講義の一部については、この草稿によって知ることができたが、この草稿にはヴェーダそのものに関する講義は含まれていない。そしてその第十五章の冒頭に「吾人は優波尼沙土以来印度ニ起レル各哲学派ノ起源主義及ビ沿革等ヲ研究セリ」（本稿六五頁参照）と述べている。通史的にはヴェーダから講義を開始するのが普通であるから、この記述は、この講義が必ずしもヴェーダに論及していないことを意味するのではなくて、「哲学」をヴェーダから区別して、ここではそのうちの「哲学」の学派だけについて言及しているのであろう。

ところで、ヴェーダに関する講義の漱石の聴講ノートが発見された。東北大学図書館に漱石文庫のあることは周知のところであるが、一九九〇年一〇月、東北大学文学部に連続講義に招かれた際に、インド哲学仏教史研究室の伊藤道哉助手の案内で漱石文庫を訪れることが出来た。もとより調査する意思も時間的余裕もまったくなかったけれども、折角の機会でもあったので、漱石文庫を見学させて頂いて、漱石の旧蔵書に対面出来ればよいという、それだけの気持ちであった。漱石文庫を収蔵する付属図書館新館はこの年の六月に増築が完成したばかりとのことで、立派な設備が調っていた。漱石文庫はその新館の中に広々としたスペースを占め、しかも厳重に管理されていた。

漱石文庫に滞在したのは十分程度であったが、漱石の学生時代の未整理断片のファイルが眼についたので開いて見た。そこにヴェーダに関するノートを記した二枚の紙を発見した。これは『漱石全集』に未収録であって、これまでにも紹介されたことがない。図書館の調査推定では、この断片は、紙質から明治二十六年頃のものとされている。年数については若干の変動もありえようが、この頃に漱石がこのようなノートを作る機会としては、井上哲次郎の講義以外には考えられない。実際にあの俳句を詠んでいることからも、そう考えて問題はないであろう。俳句からも、漱石が講義を聞いていたと考えるのが自然であるけれども、わたくし自身としては、それだけでは実際に漱石が聴講し

ていたか否かは確実ではないであろうと、慎重を期していた。しかしこの断片の発見によって、漱石が井上哲次郎の講義を聞いていたことが確実になったと言えるであろう。

その後、伊藤氏の斡旋で東北大学付属図書館においてこの断片の写真複写を作成して送って頂くとともに、翻刻掲載について許可された。ここに伊藤氏ならびに東北大学関係諸氏に心からの感謝の意を表する。

断片は二葉からなり、一葉は表裏に書かれ、他の一葉は表のみ書かれていて、裏は空白である。内容的にみてこの二葉は連続している。計三面に順次番号を付して翻刻する。

文章の句切りは明確に示されていないので、一字明けによってこれを表示することにした。行立ては原文の通りとした。また括弧〔 〕内は編者が補足したが(その他については「凡例」を参照)、聴講ノートであるために、文章としては不完全な点もあるが、そのままとした。

翻刻にあたって、石塚晴通教授の懇切な御教示をえたことを記して、謝意を表したい。ただし責任はすべて編者の負うものである。

この断片についても、本稿の第二篇において検討を加えることとしたい。

(1)『漱石全集』第十二巻、五六三頁。小宮豊隆『夏目漱石』一、二〇二頁参照。

二　漱石の断片

〔一〕　韋陁、吠陁、伏陁、違陁、薜陁、皮陁、毘陁、

韓陁、維陁、圍陁、等、[illegible]〔漱石自身の筆跡〕の訳なり

韋陁ノ解　茲ニ智論ト云　之ヲ学ベハ智ヲ生ズ　即チ邪智論ト　韋陁ヲ智ト約スルハ可ナリ　智論ト云フハ不可ナリ　邪智ト云フニ至ツテハ益不可ナリ　又唯識論ニ　明論ハ先ニ韋陁論ト云ヒ　今吠陁論ト云　吠陁ハ明ナリ　諸ノ實事ヲ明ニスル故ニ、韋陁ヲ明ト云フハ可ナレモ　論ト云フハ不可ナリ　一切經本義ニ四吠陁之ヲ四明論ト云フ　又四〔吠〕陁ハ是明解ノ義トアリ　吠陁ニ四種アリ故ニ四吠陁ト云フ　第一梨俱吠陁　二侘馬韋陀

三耶柔縷韋陁　四阿他縷婆韋陀　是ナリ

梨俱ハ賛辞ナリ　スーリヤ即チ太陽ノ神　アグニ—火ノ神　ミトラ—（矢張リ太陽ノ神）　ヴワルナ—（水ノ神）マルツ（暴風雨ノ神）　インドラ（等ノ諸神ヲ賛美セル歌ナリ　此中ニ神ヲ賛美セザル者モアリ

梨俱韋陀ハ十巻ニ分ル　其中ニ千二十八篇

ノ賛頌歌ナリ　之ヲ書キシ者ハ「リシュイ」ナリ（リシュイ）ノ中有名ナ者ヲ挙グレバ沢山アリ　梨俱韋陀ハ

〔二〕 一時ニ出来タル者ニアラズ 数百年ノ歳月ヲ閲シテ成レル者なリ 之ヲ聚メテ「サンシタ」ト云フ

偸馬吠陁ノ偸馬ハ歌ト云フ字意ナリ 但語原ハ

詳カナラズ 偸馬韋陀ノ「サンシタ」ハ二ニ分レ Ârcika Stanthika ト云フ 是儀式抔ノ時ニ歌ハザルベカラザル必要ヨリ起レリ 梨倶韋陁中ノ賛歌沢山アルヲ

以テ見レバ 梨倶ヨリ後レタルヲ見ルベシ 偸馬韋陀ノ賛歌ハ「ソーマー」ノ儀式ノ時のみニ用ゆ 「ソーマー」トハ asclepiras acida ト〔云フ〕草ノ汁ノ extract ナリ 之ヲ飲メバ醉フ 之ニ醉フ時ハ心平常ト異ナリテ 平時爲し能ハザル事ヲ仕遂る故 之ヲ神草と心得 遂ニ之を神トナセリ 此神ノ儀式ノ時ニ歌フ歌ヲ偸馬吠陁ト云フナリ 之ハ他ノ韋陁ノ事ヲ知ルニ必要ナレモ「ホイツト子ー」ノ説ニハ 尤モ面白クナキ者ナリト云 耶柔縷韋陁ヲ分ツテ二ト黒白ノ二トナス Vâjasaneya-Sanchitā, Taittiriya Sanchitā

〔三〕　耶柔縷章陁サンシタハ一切ノ儀式ニ関スル賛歌ヲ含ム

阿他縷婆トハ人ノ名ナリ　之ハ四章陁中ノ尤モ新ラシキ者ナリ　之ヲ傳フル者之ヲ古クセン爲メ　阿他縷婆氏ノ章陁ト云ヒシナリ　此中ニハ怪力ヲ防グ定式又ハ種々ノ害ヲ防ク定式　平常ノ吉凶禍福ニ関スル祈禱等ヲ含ム　四ベダノ尤モ有趣なル者なり

梨倶章陁ハ四中最モ古ク　他ノベダノ引用スル所ナリ

印度デハ四種ノ坊主儀式ヲ実行ス　第一ハ事務僧　第二ハ唱歌僧　第三ハ復讀僧　第四ハ監督僧ナリ

事務僧ハ事務ヲ取扱ふ中ニ低声ニテ賛歌ヲ歌フ（ヤ柔縷ベーダ）中ニアリ　唱歌僧ヲ「サーマベーダ」　復讀僧ノハ（梨倶ベーダー）ノ賛歌ヲ歌フ